

- 春季皇靈祭
- 仁孝天皇祭
- 神武天皇祭
- 六月大祓
- 秋季皇靈祭
- 神官新嘗祭
- 天長節
- 後桃園天皇祭
- 新嘗祭
- 光格天皇祭
- 十二月大祓

第八條 死刑ヲ執行シタルトキハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及

ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

以上ハ刑法附則ノ抄録ニ過キサレトモ仍リテ以テ死刑執行ノ手續煩ル下重ナルヲ知ル可キナリ

第三百二十二條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ニ付

キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シ

タルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ

決定ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

今夫レ無罪又ハ免訴ノ言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ニ付キ更ニ裁判所ノ決定ヲ煩ヌカ如キコト絶ヘテ是レアラサル可シト雖モ刑ノ

言渡アリタル場合ニ於テハ假令其言渡已ニ確定シタル後ト雖モ亦裁判所ノ決定ヲ要ス可キ紛議ノ生スルナキヲ保セス然レハ豫メ此紛議ノ起リタル時ニ當リテ何レノ裁判所之レヲ決定スルヤノ規定ヲ設ケ置クニ非サレハ實際上大ナル不都合ヲ見ルニ至ル可シ是レ茲ニ本條ノ規定アル所以ナリ

刑ノ言渡已ニ確定シタル後ニ生スヘキ紛議ハ千種萬様ナル可シト雖モ要スルニ左ノ二個ニ過キヌ即チ

第一、刑ノ言渡ニ付キ疑義ノ申立 刑ノ言渡ニ付キ其意義及ヒ其區域ニ付キ疑ヲ生ス可キ場合ハ實際上殆ント稀ナル可シト雖モ亦全ク之レナシト斷言スルヲ得ヌ設令ハ刑ノ言渡書中唯禁錮トノミ書シテ其輕禁錮ナルヤ將テ重禁錮ナルヤヲ定メヌ又監視又ハ公權停止ノ附加刑ヲ言渡シテ其期間ヲ定メヌ又罰金ヲ言渡シテ其金額ヲ明示セス沒

收ヲ言渡シテ其物件ヲ指定セサルカ如シ

第二、刑ノ執行ニ付キ異議ノ申立 刑ノ言渡確定シタル後ニ至リ其執行ニ付キ異議ヲ生スルコトナキニ非ス而シテ此異議ノ原由其執行ノ場所時日及ヒ其手續等ニ在リトス第一ノ場合ハ刑ノ言渡其明瞭確的ヲ欠クニ在リ第二ノ場合ハ刑ノ言渡明瞭ナラサルニ非ス且ツ確的ナラサルニ非サルモ其執行ノ場所時日及ヒ其手續ニ付キ執行者ト被執行者トノ間ニ意見ヲ異ニスルニ在リ故ニ第二ノ場合ハ第一ノ場合ニ比シテ多ク實際ニ生スルモノトス

刑ノ言渡ニ疑義アルハ敢テ法律上ノ錯誤ニ在ラスト雖モ之レヲ明了ナラシメサルニ於テハ刑ヲ執行スルニ由ルナカル可シ又刑ノ執行ニ付テハ原裁判所ノ管スル所ニ在ラスト雖モ其方法如何ハ大ヒニ被告ノ利害ニ關スル所ナリ故ニ此疑義ノ申立若クハ異議ノ申立ニ付キ

之レカ決定ヲ爲ス可キ裁判所ヲ定メ置クモ亦其必要ナクンハアラス
 本條ハ之レヲ規定シテ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ決定ス可シ
 トセリ他ナシ此裁判所ハ能ク其裁判言渡所ニ記スル所ヲ指定シ得ヘ
 クレハナリ或ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ職員其人ニ更迭ヲ生セ
 シトキハ其裁判ノ意義ヲ解釋スル能力ニ乏シカル可シト云フモノア
 リ是レ實ニ至當ノ考察ナリ然レトモ若シ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所
 ニシテ其疑義ヲ明晰ナラシメ其異議ヲ決定スルヲ得ストセハ他ノ裁
 判所モ亦然ラサルヲ得ス假リニ他ノ裁判所ハ之レヲ能シ得可シトス
 ルモ如何ノ名稱ニ依リテ是等ノ申立事件ヲ其裁判所ノ管轄ニ屬セシ
 ムルコトヲ得ヘキ乎サレハ是等ノ申立ヲ原裁判所ニ爲サシムルハ確
 實ナル理由アルニ非スシテ只タ止ムヲ得サルニ出ルモノト知ル可キ
 ナリ

然レトモ右ノ申立ハ申立人ノ利害ニ關スルコト頗ル切ナルモノナレ
 ハ已ムヲ得サルニ出テタルノ故ヲ以テ原裁判所ノ決定ニ一任スルニ
 止マラス尙ホ其決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ許スモ亦至當ノ事ト
 云フ可キナリ

第三百二十三條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ辨濟ス可キ
 訴訟費用ニ付キ其判決ノ執行ハ民事訴訟法ノ規定
 ニ從フ

賠償及ヒ訴訟關係人ニ辨濟スヘキ訴訟費用ハ罰金科料等トハ全ク其
 性質ヲ異ニシ民事上ニ關スルナリ即チ賠償ハ公訴ニ附帶シテ爲シタ
 ル私訴ノ効果ニ係リ例ヘバ強盜盜犯ニ付テハ其贓物ニ對スル損害ノ
 賠償又ハ詐欺取財ニ付テハ其詐欺セラレタル財物ノ賠償等及ヒ私訴
 ヲ起シタルニ因リテ生シタル費用ノ謂ヒニシテ判決ニ因リ被告人カ

刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ當然其賠償及ヒ訴訟費用ヲ負擔シテ之ヲ
 辨償セサルヘカラス然レモ是等ハ全ク私訴即チ民事上ニ屬スルモノ
 ナルヲ以テ刑事訴訟法ノ關スル所ニアラス故ニ賠償及ヒ訴訟費用ニ
 付テハ民事訴訟法ノ規定ニ從フヘキモノトセリ
 民事訴訟法ノ規定ニ依レハ損害ノ賠償ニ付テハ被告人ノ全財産ニ對
 シ同法第四百九十條乃至第七百六十二條ノ規定ニ從ヒテ其辨償ヲ受
 クヘキコト勿論ニシテ又訴訟費用ニ付テハ同法第七十二條乃至第八
 十六條ノ規定ニ從ハサルヘカラス而シテ被告人ハ既ニ刑ノ言渡ヲ受
 ケタルニモ拘ハラヌ尙ホ賠償及ヒ訴訟費用ノ辨償ヲ負擔セサルヘカ
 ラサルノ理由ハ既ニ第二條及ヒ第三條ニ於テ續ク説明シタルヲ以テ
 爰ニ贅セス宜ク該兩條ノ下ニ就テ參看セハ自ラ明解ヲ得ラルヘシ

第二章 復權

復權トハ裁判ノ結果ニ因リテ褫奪セラレタル公權ヲ回復スルヲ云ヒ
 即チ刑法第六十三條ニ規定シタルモノ是ナリ故ニ復權ノ意義ニ付テ
 ハ爰ニ説明ヲ下スノ必要ナシ何トナレハ本章ニ掲グルモノハ唯ク復
 權ノ手續ヲ規定シタルニ過キサレハナリ然モ復權ノ性質ニ付テ一言
 スルハ蓋シ讀者ノ注意ヲ喚起スルカ爲メ亦無用ノ言ニアラサルヘシ
 抑モ復權ハ如何ナル性質ヲ有スルヤト問ハ、行政上ノ處分ニ屬スル
 モノニシテ裁判上ニ屬スルモノニアラスト答フヘシ何トナレハ若シ
 此處分カ裁判上ニ屬スルモノトセハ其請願ハ之ヲ檢事局ニ差出サス
 シテ宜シク裁判所ニ差出サシムルヲ至當トスレハナリ然ルニ其請願
 ヲ檢事局ニ差出サシムルモノハ即チ行政上ノ處分ニ屬スルカ故ナリ
 ト知ルヘシ

第二百二十四條 復權ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メ

タル期間經過シタル後刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ
司法大臣ニ之ヲ爲ス可シ
復權ノ願書ハ現ニ住スル地ノ地方裁判所檢事ニ之
ヲ差出ス可シ

本條ハ復權請願ノ手續ヲ規定シタルモノニシテ即チ復權ノ請願ハ刑
法第六十三條ニ定メタル主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過シタル
後其刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法大臣ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノ
トセリ是レ他ナシ復權ノ處分ハ前既ニ説明シタルカ如ク行政上ノ處
分ニ屬スルヲ以テナリ

右復權ノ願書ハ本人カ現ニ住居スル地ノ地方裁判所檢事ニ之ヲ差出
スヘキモノト法定シタルハ他ナシ檢事ハ第三百二十六條ノ規定ニ從
ヒ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ右ノ願書ニ意見ヲ添付シテ之ヲ

司法大臣ニ差出スヘキ職任ヲ負フヲ以テナリ而シテ復權ノ願書ニハ
本人署名捺印スル等ノ方式ヲ要スルハ蓋シ言ヲ俟タサルヘシ

第三百二十五條 復權ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フ可

- 第一 判決ノ正本
- 第二 主刑ノ滿期特赦ト爲リ又ハ時効ノ成就シ
タルコトヲ證明スル書類
- 第三 假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタル證書
- 第四 賠償及ヒ訴訟費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ
免カレタル證書

第五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類
本條ハ復權ノ願書ニ添付シテ差出スヘキ必要ナル書類ノ何タルコト

ヲ指示シタルニ外ナラズ而シテ其書類ハ凡ソ五種ニシテ皆ナ復權ノ
請願ヲ允許スヘキヤ否ヤヲ調査スルカ爲メ最モ必要ナル書類ナリト
ス左ニ其必要ナル理由ヲ解説スヘシ

第一 判決ノ正本○判決ノ正本ハ何レノ時何レノ地ニ於テ何等ノ罪
ヲ犯シ如何ナル刑ニ處サレタルヤヲ證明スルニ付キ根幹タルヘキ証
據力ヲ有スルヲ以テ復權願書ニハ缺クヘカラサルモノトス蓋シ第二
ニ掲ケタル主刑ノ滿期若クハ特赦又ハ時効ノ成就ヲ證明スルニハ實
ニ必要ナル證據物ニシテ若シ之ヲ添付セサルトキハ假令ヘ如何ナル
陳述ヲ爲スモ其真否ヲ認知スルコトヲ得サルヘシ是レ判決ノ正本ハ
第一ニ添付セシムル所以ナリ

第二 主刑ノ滿期特赦ト爲リ又ハ時効ノ成就シタルコトヲ證明スル
書類○復權ハ刑法第六十三條ニ明示スルカ如ク主刑ノ期間ノ滿了ヨ

リ起算シ五ヶ年ヲ經過シタルトキニ於テ之ヲ允許スヘキモノナルヲ
以テ其請願ヲ爲スニハ主刑ノ滿期ヨリ既ニ五ヶ年ヲ經過シタルニ相
違ナキコトヲ證明セサルヘカラス又特赦ハ處刑ヲ受ケタル後善ク獄
則ヲ守リ品行方正ニシテ悔悟ノ實効ヲ顯ハシ他ノ犯人ノ鑑戒タルヘ
キ者ニ對シ主刑ノ滿期前ニ於テ特ニ赦免ノ恩典ヲ與フルモノナルヲ
以テ此特赦ヲ受ケタル者ハ亦特ニ復權ヲ得セシムヘシト雖モ亦其特
赦ヲ與ヘラレタル證書ニ依リ之ヲ證明セサルヘカラス時効ノ成就シ
タルニ付テモ亦之ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ナカルヘカラス否ヲサ
レハ果シテ時効ノ成就シタルヤ否ヤヲ信認スルコトヲ得サルヘシ故
ニ右三箇ノ場合ニ於テハ各其證明ヲ爲スニ付テ必要ナル書類ヲ添付
スヘキモノトセリ

第三 假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタル證書○刑法第五十三條ニ

重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑
 期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ
 得云々トアリテ假出獄ヲ許サレタル者ハ品行方正ニシテ悔改ノ實効
 アリタル者ナルコトヲ知ルヘシ又假リニ監視ヲ免セラレタル者モ亦
 品行方正ニシテ全ク悔改ノ實効ヲ顯ハシタル者ナルハ疑フヘカラス
 且雖モ其證書ヲ添付セサルトキハ果シテ假出獄ヲ許サレ及ヒ假リニ
 監視ヲ免セラレタルヤ否ヤヲ知ルヘカラス故ニ此證書ハ必ズ添付ス
 ヘキモノトス而シテ品行方正ニシテ悔改ノ實効アリシヤ否ヤハ復權
 ノ願ヲ許否スルニ付キ其參考トシテ之ヲ要スルモノタルヲ知ルヘシ
 第四 賠償及ヒ訴訟費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免カレタル證書〇復
 權ハ行政上ノ一處分ニ屬スルヲ以テ果シテ如何ナル條件ヲ具備シテ
 其允許ヲ受ケルニハキモノナルヤ刑法上ニハ唯々其大要點ヲ規定シ

タルニ過キヌレテ其詳細ノ點ニ至テハ之ヲ明示セスト雖モ主刑ノ終
 リタル日ヨリ五年ヲ經過スル後其情狀ニ因リ云々トアルヲ以テ視レ
 ハ管ヤニ品行方正ニシテ悔改ノ情狀アルノミナラス其犯罪ニ因リテ
 生セシメタル損害ノ賠償(被害者ニ對シテ爲ス賠償)及ヒ裁判費用ヲ辨
 濟シ又ハ他ノ事由ニ因リテ其義務ヲ免カレタル程ノモノニアラサレ
 ハ復權願ヲ允許セサルノ旨趣タルヤ敢テ疑ヒヲ容レサルヘシ果シテ
 其レ然リトセン乎其賠償及ヒ裁判費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免カレ
 タルコトヲ證明セシメサルヘカラス而シテ之ヲ證明セシムルニハ其
 果シテ賠償及ヒ裁判費用ヲ辨濟シタルニ因リテ得タル所ノ受取證書
 等ヲ添付セシムルニアラサレハ未タ以テ之ニ信ヲ置クニ足ラス是レ
 右ノ證書類ヲモ添付セシムル所以ナリ

第五 過去、現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類〇復權ノ請願者ハ獨

リ過去ニ於テ品行方正ニシテ悔改ノ情狀アルノミナラス將來ニ於テモ亦公益ニ逆フカ如キ推測ヲ許サ、ルモノタルヲ要スルハ論ヲ俟タサルヘシ而シテ將來ニ於テモ亦品行方正ナルヘシトシテ推測ヲ下スノ標準タルヘキモノハ現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類ニ在リト云ハサルヘカラス故ニ此等ノ書類モ亦必ス願書ニ添付スヘキモノトセリ

第三百二十六條 檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ檢事長ニ差出ス可シ

復權ノ願書ニハ既ニ前條ニ掲ケタル必要ノ書類ヲ添付シテ差出サシムルトキハ最早其復權願ヲ允許スヘキヤ否ヤヲ判定スルニ足ルヘシ雖モ尙ホ其判定ノ材料ヲシテ充分ナラシメンカ爲メ願人ノ品行其

他必要ノ調査ヲ爲ス可ト甚タ必要ナリト云フ可シ何トナレハ復權ヲ許スト否トハ實ニ人ノ重事ニ屬スルヲ以テ輕忽ニ判定スヘキモノニアラサレハナリ若シ夫レ復權ヲ許スヘカラスル者ニ對シテ之ヲ許シ又ハ許スヘキ者ニ對シテ之ヲ拒否スルカ如キアラハ實ニ復權ノ特典ヲ傷害スルモノト云ハサルヘカラス故ニ復權ノ願書ヲ受理シタル檢事ハ前條ノ書類アルニ拘ハラヌ尙ホ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添付シテ之ヲ檢事ノ所屬スル地方裁判所ノ直近控訴院ノ檢事長ニ差出スヘキモノトセリ

第三百二十七條 檢事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復權ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

前條ニ規定シタルカ如ク復權願ノ本人ヨリ必要ナル書類ヲ添付シテ

差出サシムルノ外尙ホ檢事ヲシテ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ以テ意見書ヲ差出サシムルト雖モ檢事ノ取調猶ホ未タ充分ナラサルコトナシトスヘカラス故ニ檢事長ハ願人ノ呈出スル書類ト檢事ノ意見書トヲ閱覽シ尙ホ必要ナル取調ヲ爲シ其意見書ヲ作成シテ復權ノ願ニ關スル書類ニ添付シ而シテ之ヲ司法大臣ニ差出スヘキモノトセリ之ヲ要スルニ復權ノ願ニ付テハ調査ノ及フ限リハ精密ニ調査シ濫リニ之ヲ允許セズ復權ノ材料充分ニシテ當然許スヘキモノト確信スル場合ニ限リ之ヲ許スノ意タルニ外ナラス

右ノ書類差出ノ手續ハ檢事ヨリ檢事長ヲ經由シテ司法大臣ニ差出スヘキモノト法定シタルハ他ナシ檢事ハ司法大臣ト直接ニ往復スルコトヲ得サルヲ以テナリ故ニ檢事ハ先ツ其請願書類ヲ監督權ヲ有スル檢事長ニ差出シ檢事長ニ於テ其書類ノ正確ナルコトヲ認知シタル後

之ヲ司法大臣ニ差出スヘキモノトセリ

第三百二十八條 司法大臣ハ復權ノ願ニ關スル書類

ヲ檢閲シ之ニ意見書ヲ添ヘ速ニ上奏ス可シ

本條ハ司法大臣ニ於テ前條ノ規定ニ從ヒ檢事長ヨリ差出シタル復權ノ願ニ關スル書類ヲ受取りタルトキハ如何ナル處置ヲ爲スヘキヤヲ規定シタルニ外ナラス此場合ニ於テハ司法大臣ハ右ノ書類ニ付キ果シテ正確ノモノナルヤ否ヤヲ檢閲シ果シテ正確ナルモノト認メタルトキハ之レカ許否ニ關スル意見書ヲ添付シ速ニ上奏スヘキモノトス而シテ法文上注目スヘキハ「速ニ」云々トアルモノ是レナリ復權ハ人ノ重大事項ニ屬スルヲ以テ之ヲ等閑ニ付スヘキモノニアラサルハ勿論果シテ復權ノ許可ヲ受クヘキ者ナルトキハ速カニ其利益ヲ取得セシメサルヘカラス何トナレハ復權ノ許否ハ能力ノ有無ヲ指示スルノ効

カヲ生スヘキモノナレハナリ故ニ其許否ハ迅速ナラシメサルヘカラ
 ス若シ夫レ復權ヲ得ヘキ者ニシテ唯タ其願書ノ上奏ノ遅延ナルカ爲
 メ徒ラニ時日ヲ消費スルカ如キアラハ其不幸ヤ實ニ大ナリト云フヘ
 シ蓋シ是レ法文中ニ「速ニ」ノ二字ヲ挿入シタル所以ナリ
 爰ニ又一言スヘキハ檢事ヨリ檢事長ヲ經由シテ司法大臣ニ及ホシ司
 法大臣ニ至テ始メテ上奏ノ手續ヲ爲スモノ是レナリ原來司法大臣ハ
 檢事長ノ意見ニ牽制セラルヘモノニアラスト雖モ實際ニ於テハ檢事
 長ノ意見ハ司法大臣ノ意見ヲ動かスノ効力アルヘク又檢事ノ意見ハ
 暗々裏ニ檢事長ノ意見ニ影響ヲ及ホスヘキモノト推測セザルヘカラ
 ス蓋シ是レ先ツ檢事ヲシテ其意見ヲ陳述セシメ次テ又檢事長ノ意見
 ヲ添ヘシメ最後ニ司法大臣ノ意見ヲ添フヘキモノト法定シタル所以
 ナリ故ニ願書ニ最モ近接スル所ノ官吏ハ公平無私ノ意見ヲ立テンコ

ト最モ望ム所ナリト云フヘシ

第三百二十九條 勅裁ニ因リ復權ノ願ヲ却下シタル

トキハ司法大臣ヨリ其旨ヲ檢事長ニ通知シ檢事長
 ヨリ願書ヲ差出シタル地方裁判所檢事ニ通知ス可
 シ

前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期
 間ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコト
 ナ得ス

更ニ復權ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規定ニ從
 フ

抑モ復權ノ處分タルヤ日本國民トシテ享有スル權利ヲ回復セシムル
 ノ處分ナリ故ニ司法大臣ト雖モ其請願ヲ許否スルノ權ナキハ勿論タ

リ何トナレハ日本國民ノ支配權ハ畏クモ 天皇陛下ノ大權ニ屬スレ
 ハナリ故ニ復權ノ願書ハ司法大臣ノ意見ヲ添ヘテ勅裁ニ因リ之ヲ決
 スヘキモノトセリ而シテ勅裁ニ因リ許可スヘカラサルモノトシテ其
 願ヲ却下シタルトキハ司法大臣ヨリ其旨ヲ檢察長ニ通知シ檢察長ヨ
 リ願書ヲ差出シタル地方裁判所檢察事ニ通知スルコト亦願書差出ニ於
 ケル手續ノ順序ヲ反對ニ踐ムヘキモノトセリ是レ他ナシ假令ハ願書
 ハ却下セラル、モ人ノ重事ニ屬スルヲ以テ鄭重ナル方式ニ依ラシム
 ルコト至當ナレハナリ

第二項ハ再願ニ關スル要件ヲ規定シタルニ外ナラス既ニ勅裁ニ因リ
 復權ノ願ヲ却下セラレタリト雖モ之カ爲メ全ク其貴重ナル請願權ヲ
 失ハシムヘキモノニアラス然レモ却下セラレタルニ拘ハラズ直チニ
 再出願ヲ爲サシムルアラハ亦前ノ請願ト同シク却下セラル、ハ必然

ニシテ斯ノ如キハ徒ラニ煩勞ヲ求ムルノミニシテ唯タニ其効果アラ
 サルノミナラス貴重ノ請願權ヲ輕視スルニ至ルノ憂ヒナシトスヘカ
 ラス故ニ一旦願ヲ却下セラレタル者ハ刑法第六十三條ニ定メタル期
 間ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得サルモノトセ
 リ而シテ其再願ヲ爲シ得ルノ期間ハ刑法第六十三條ニ定メタル期間
 ノ半ヲ經過スルトキニ始マルモノト法定シタルハ他ナシ假令ハ復權
 請願ノ材料充分ナラサリシ者モ刑法第六十三條ニ定メタル期間ノ半
 ヲ經過スルマテニハ其材料ノ充備ヲ得ルニ至ルヘキモノト想像スヘ
 ケレハナリ

第三項ハ更ニ復權ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ニ規定シタル手續ヲ
 踐ムヘシト云フニ過キスシテ特ニ説明ヲ要スルノ點ナキモノトス故
 ニ贅セズ

第三百三十條 復權ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ヨリ其裁可狀ヲ檢察長ニ送致シ檢察長ヨリ願書ヲ差出シタル地方裁判所檢察事ニ送致ス可シ
 檢察事ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付ス可シ
 又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ判決ノ原本ニ記入ス可シ

前條ハ復權ノ願ヲ却下スル場合ヲ規定シ本條ハ復權ノ裁可アリタル場合ヲ規定シタルモノナリ本條ノ規定ニ依レハ復權ノ裁可アリタルトキハ亦却下ノ場合ニ於ケルカ如ク願書ヲ差出スニ當リテ經由シタル順序ヲ降下シテ終ニ其願人ニ裁可狀ノ謄本ヲ下付スヘキモノトス是レ尚ニ至當ノ規定ニシテ一モ疑ヒノ存スル點ナシ故ニ第一項及ヒ

第二項ノ規定ニ付テハ別ニ説明ヲ要セサルヘシ

第三項ノ法文ニ依レハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニモ亦特別ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ハ之ヲ判決ノ原本ニ記入スヘキモノトセリ是レ他ナシ元來復權ナルモノハ裁判言渡ノ効力ヲ滅殺スヘキモノナルヲ以テ若シ復權ノ裁可アリタル旨ヲ其判決ノ原本ニ記入セサルトキハ他日如何ナル錯誤ヲ招クヤモ亦未タ知ルヘカラサルヲ以テナリ

舊治罪法草案第六百四十二條第二項ニ依レハ檢察ノ請求ニ因リ復權ノ裁可狀ハ公廷ニ於テ之ヲ朗讀シ而シテ其公正ナル謄本ヲ願人ニ下付スヘキモノトセリ然ルニ舊治罪法ニ於テハ全ク之ヲ削除セラレ單ニ「檢察ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付ス可シ」トアリ本法ニ於テモ亦此點ニ付テ修正ヲ加ヘラレヌ舊治罪法ト同一ノ法文ヲ掲ケラレタリ復

權ノ裁可狀ハ勅裁ニ因リテ下付セラルトモナレハ之ヲ願人ニ下付
スルニ當リ嚴肅ナル手續ニ依ルヘキコト當然ナルカ如シト雖モ前既
ニ説明シタルカ如ク復權處分ハ行政上ノ處分ニ屬スルヲ以テ其裁可
狀ノ下付モ亦之ヲ公廷ニ於スヘキモノニアラス故ニ單ニ其騰本ヲ願
人ニ下付スルヲ以テ足レリトスヘキナリ

第三章 特赦

特赦ハ天皇陛下ノ大權ニ屬スル一ノ恩典ニシテ顯著ナル後悔ノ實効
アルモノニ限り既ニ言渡ヲ受ケタル處刑ヲ特赦スルモノナリ本章ハ
此特赦ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ此特典ハ一ノ悔悟者ニ恩
典ヲ與ヘ以テ他ノ不悔悟者ヲ善道ニ誘フノ精神ニ出ルニ外ナラス

第三百三十一條 特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時

ニテモ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ監獄

署長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法大臣ニ申立ルコト
ヲ得

監獄署長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ストキハ檢事ヲ經由
ス可シ但檢事ハ意見書ヲ添フ可シ

特赦ノ申立アリタルトキハ司法大臣ヨリ其書類ニ
意見書ヲ添へ上奏ス可シ

前既ニ説明シタルカ如ク復權ナルモノハ主刑ノ終リタル日ヨリ五个
年ヲ經過スルニアラサレハ其請願ヲ爲スコトヲ得ス然ルニ特赦ニ付
テハ本條第一項ノ法文ニ明示スルカ如ク刑ノ言渡確定シタル後何時
ニテモ檢事又ハ監獄署長ヨリ司法大臣ニ申立ツルコトヲ得ヘキモノ
トス今夫レ復權ト特赦トノ間ニ於テ斯ノ如ク區別ヲ爲シ一ハ主刑ノ
終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルヲ要シ一ハ刑ノ言渡確定スルヤ否

直チニ其申立ヲ爲スコトヲ許シタルモノハ抑モ是レ何等ノ理由アリ
 テ存スルニ因ルヤ爰ニ復權ト特赦トノ異ナル所以ヲ説明スルハ蓋シ
 讀者ノ參考ニ供スルカ爲メ亦甚ク必要ナルヲ信ス
 夫レ復權ナルモノハ犯人其者ノ心術品行ニ起因シテ特赦ハ偏ヘニ天皇
 ノ恩典ニ出ルモノタルハ言ヲ俟タスト雖モ抑モ又政治上ノ必要ニ起
 因スルモノト云ハサルヘカラス何ヲカ特赦ハ政治上ノ必要ニ起因ス
 ト云フヤブルンチーリ氏曰ク特赦ハ既ニ時世ニ慍ハサル法律ノ酷薄
 ナル所ヲ寛和ナラシメ且ツ強硬ニシテ變通シ難キ法律ヲ千狀萬態ナ
 ル目下ノ時勢ニ從ツテ變通セシムルニ欠クヘカラサルモノナリト氏
 ノ言ニ依レハ特赦ハ政治上ノ必要ニ起因スルモノタルヤ敢テ疑ヒヲ
 容レサルヘシ然レモ特赦ハ尙ホ他ノ必要ニ出ツルコトナシトスヘカ
 ラス他ナシ裁判言渡ニ巨大ナル錯誤アルコトヲ發見スルモ既ニ已ニ

其上訴ヲ經盡シ最早他ニ之ヲ醫治スルハ方法ナキ場合又ハ犯罪ノ情
 狀極メテ輕ク法律上赦シ得ヘキ限リハ之ヲ減等セシメタルモ尙ホ其
 刑ノ苛酷ニ失スル場合等ニ於テ特赦ヲ施スノ必要アルモノ是レナリ
 斯ノ如ク説キ來ルトキハ復權ハ犯人一箇ノ情狀ヨリ起ルモノニシテ
 特赦ハ專ラ政治上ノ必要ト之ニ附随スル裁判錯誤等ヲ救済スルノ必
 要トニ起因スルモノト論決セサルヘカラス

特赦ノ性質タルヤ既ニ前陳ノ如キアルヲ以テ之ヲ施行スルノ必要ハ
 必ス或ル一定ノ期間アルヘキモノニアラス是レ本條第一項ノ法文ニ
 示スカ如ク特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ之ヲ申立ツルコ
 トヲ得セシムル所以ナリ而シテ檢事又ハ監獄署長ヨリ司法大臣ニ此
 申立ヲ爲スニ當リ犯人ノ情狀ヲ具狀セシムルモノハ他ナシ假令ハ特
 赦ハ專ラ政治上ノ必要ニ出ツルトスルモ其事タルヤ畏クモ天皇陛下

恩典ニ屬スル以上ハ犯人ノ情狀如何ニ因リ取捨スル所ナカレハカ
 ラズ是レ檢事又ハ監獄署長ハ犯人ノ情狀ヲ具シテ司法大臣ニ申立ヲ
 爲スルキモノト法定シタル所以ナリ
 監獄署長ヨリ特赦ヲ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ檢事ヲ經由スルキモノ
 ト規定シタルハ何ソヤ他ナシ元來囚人ハ檢事ノ監督ヲ受クヘキモノ
 ナルカ故ニ其監督官ヲ經由スルハ事ノ順序ニ於テ然ラシメサルハカ
 ラキレハナリ
 又檢事ノ意見ヲ添付セシムルモノハ其申立ノ果シテ允許スヘキモノ
 ナルヤ否ヤヲ判定スルノ參考ニ供スルニ外ナラス第三項ニ於テ司法
 大臣ヨリ上奏スル場合ニ於テ其意見書ヲ添フヘシト規定シタルモ亦
 此旨意ノ外ニ出テサルヘシ

第三百三十二條 司法大臣ハ刑ノ言渡確定シタル後

何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得

死刑ヲ除ク外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停

止セス

特赦ノ近因ハ天皇陛下ノ恩典ニ屬スト雖モ其遠因ハ政治上ノ必要ニ
 出ツルヲ以テ之レカ申立ヲ爲スモノモ亦彼ノ復權ノ場合ニ於ケルモ
 ノト異ナリ當テニ檢事又ハ監獄署長ノミナラス本人ニ最も近接セサ
 ル所ノ司法大臣ニ於テモ亦之ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノトセリ若
 シ夫レ特赦ヲシテ政治上ノ必要ニ出ラシメヌ單ニ犯人ノ心術品行ノ
 ミニ起因スルモノトセハ犯人ト最も隔距スル所ノ司法大臣ヨリ此申
 立ヲ爲スハ殆ント解スヘカラサルモノ、如ク然リト云ハサルヘカラ
 ス然ルニ尙ホ本條第一項ノ規定アルモノハ即チ是レ特赦ハ政治上ノ
 必要ヲ遠因トスルコトヲ暗々裏ニ證明スルモノト云ハスシテ何ソヤ

特赦ハ裁判言渡ニ對スル上訴ト全ク其性質ヲ異ニスルノ理由ハ上來
 解説シタル所ヲ以テ既ニ明瞭ナリトス其レ然リ特赦ハ假令ハ政治上
 ノ必要ニ起因スルモノナリトスルモ彼ノ裁判言渡ヲ翻案スル所ノ上
 訴ト其性質ヲ異ニスル以上ハ刑ノ執行ヲ停止スルノ理由アルヘキモ
 ノニアラス然レモ獨リ死刑ニ至リテハ然ラス何トナレハ死刑ハ一タ
 ビ之ヲ執行スルトキハ造物者ト雖モ恐ラク之ヲ回復スルノ手段アラ
 サレバナリ故ニ特赦ノ申立アルモ刑ノ執行ヲ停止セサルヲ正則ト爲
 スニ拘ハラス獨リ死刑ノ執行ノミハ之ヲ停止スヘキモトセリ

第三百三十三條 特赦ノ申立却下アリタルトキハ司
 法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ其
 旨ヲ通知ス可シ

第三百三十四條 特赦ノ裁可アリタルトキハ司法大

臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ特赦狀
 ヲ送致ス可シ此場合ニ於テハ第三百三十條ノ規定
 ニ從フ

右兩條ニ特赦申立ノ却下又ハ裁可アリタル場合ニ於テ如何ナル處置
 ヲ爲スヘキヲ指示シタルニ過キヌシテ之ヲ要スルニ特赦ノ却下又ハ
 裁可ヲ通知スルニ付テ必要ナル手續ヲ定メタルニ外ナラス即チ第三
 百三十三條ハ特赦ノ却下ノ場合ニ關スル處置方ヲ定メ第三百三十四
 條ハ特赦ノ裁可アリタル場合ニ關スル手續ヲ定メタルニ過キヌ而シ
 テ特赦ノ裁可アリタルトキ司法大臣ヨリ特赦狀ヲ刑ノ言渡ヲ爲シタ
 ル裁判所ノ檢事ニ送致スル等ノ手續ハ第三百三十條ノ規定ニ從フヘ
 シト定メラレタルモノハ他ナシ特赦ト復權トハ全ク其性質ヲ異ニス
 レモ其旨ヲ本人ニ知ラシムルノ手續ニ至テハ同一ナラシムルコト人

權ヲ重シタルノ點ニ於テ至當ナレハナリ尙ホ宜シク第三百三十條ノ
説明ヲ參看スヘシ

附則

第一條 此法律施行前ニ受理シタル豫審ノ故障及ヒ
其故障ノ判決ニ對スル上告ハ之ヲ受理シタル地方
裁判所又ハ大審院ニ於テ抗告トシテ之ヲ裁判ス可
シ

本條以下五條ハ本法ヲ實施スルニ際シ舊治罪法ニ依リテ既ニ着手シ
タル事項ニシテ本法ト牴觸スルモノアルニ付キ其處置方法ヲ指示シ
タルニ過キサルモノトス是レ附則ノ名稱ヲ下シタル所以ナリ
舊治罪法ニ於テハ豫審ノ終結ニ對シ故障ノ申立ヲ許シタルニ止マリ
全ク抗告ノ規定アラザリシヲ以テ此法律ノ施行前ニ受理シタル豫審

ニ對スル故障ハ如何ナル處置ヲ爲スヘキヤ本法ニ於テ既ニ故障申立
ノ規定ヲ削除セラレタル以上ハ之レヲ處置法ヲ設ケサルヘカラス否
ラサレハ故障ノ申立ヲシテ自ラ消滅ニ歸セシメサルヘカラスシテ被
告人ニ至大ノ不利益ヲ與フルコト言フ俟タサルヘシ故ニ此法律ノ施
行前ニ受理シタル豫審ノ故障及ヒ其故障ノ判決ニ對シテ爲シタル上
告ハ之ヲ受理シタル地方裁判所又ハ大審院ニ於テ抗告トシテ之ヲ裁
判スヘキモノトセリ
前陳ノ如ク故障ノ申立ヲ抗告ト看做シテ之ヲ裁判セシムルモノハ蓋
シ舊治罪法ニ於ケル故障ト本法ニ於ケル抗告トハ唯タ其名稱ヲ改メ
タルニ過キスシテ其性質ニ至テハ異ナル所アラザレハナリ爰ニ其要
領ヲ説明スレハ故障ハ本判決ニ對シテ爲スモノニアラス即チ豫審ノ
終結ニ對シテ不服ヲ訴フルニ外ナラス故ニ或ル判定又ハ命令ニ對シ

テ不服ヲ訴フル抗告ト同一ニシテ本案事件ノ全躰ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス故ニ舊治罪法ニ依リテ爲シタル豫審ノ故障及ヒ其判決ニ對スル上告ハ總テ抗告ト看做シテ裁判スヘキハ至當ナリトスルモ抗告ノ規定ニ依レハ何レノ場合ト雖モ直近上級裁判所ニアラサレハ之ヲ裁判スルノ權ナシ然ルニ豫審ノ故障ハ抗告ト看做スニモ拘ハラズ之ヲ受理シタル地方裁判所ニ於テ之ヲ裁判セシムルモノハ恐ラク越權ノ嫌ヒヲ免カレサルカ如シ然レモ此法律ノ施行前ニ受理シタル豫審ノ故障ハ蓋シ其數僅々タルヘキノミナラス元來舊治罪法ニ依リテ爲シタル故障ナルヲ以テ更ニ之ヲ直近上級裁判所ニ移ストキハ却テ被告人ニ不利ヲ感セシムルコトナシトスヘカラス蓋シ是レ既ニ受理シタル地方裁判所ニ於テ其裁判ヲ爲サシムル所以ナリ

第二條 大審院ニ於テ既ニ受理シタル哀訴裁判管轄

ヲ定ムルノ訴及ヒ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴

ハ治罪法ノ手續ニ依リ大審院之ヲ裁判ス可シ

本條ハ舊治罪法ニ於テ定メタル大審院ノ特別權限内ニ於テ既ニ受理シタル哀訴及ヒ裁判管轄ニ關スル訴ノ處置方法ヲ指示シタルニ外ナラズ然レモ被告人ノ利益ニ關係ヲ有スルコト亦少ナラサルヲ以テ此法律ヲ實施スルニ及シテハ其處置ヲ適當ニ爲サシムルコト亦甚ク必要ナリトスヘシ而シテ哀訴ハ本法ニ於テ全ク之ヲ削除セラレタルニモ拘ハラズ本法ノ實施前ニ受理シタルモノハ尙ホ大審院ニ於テ之ヲ裁判セシムルモノハ何ソヤ他ナシ舊治罪法ニ於テ哀訴ヲ許シタルモノハ當時裁判所ノ構成未タ完全ナラサリシヲ以テ既ニ大審院ニ於テ適法ノ裁判ト認メテ其上告ヲ棄却シタルモノト雖モ亦或ハ其裁判ニ萬一ノ誤認ナキヲ保セサレハナリ裁判所構成法既ニ實施セラレタ

ル今日ニ於テハ復タ哀訴ヲ許スノ必要ナシト雖モ裁判所ノ構成未タ完全ナラサルトキニ於テ爲シタル哀訴ニ付テハ尙ホ之ヲ裁判シテ哀訴人ニ満足ヲ與ヘサルヘカラス何トナレハ其哀訴ハ正當ノ理由アルモノナルヤ否ヤハ之ヲ審判スルニアラサレハ未タ知ルヘカラサレハナリ是レ既ニ受理シタル哀訴ハ尙ホ其効力ヲ保有セシメ至當ノ裁判ヲ受ケシムル所以ナリ

又裁判管轄ヲ定ムルノ訴ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從ヒ直近上級裁判所ニ於テ之ヲ裁判シ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ本法第三十七條ノ規定ニ從ヒ亦直近上級裁判所ニ於テ其裁判權ヲ有スルコト明カナルヲ以テ此等ノ訴ハ必シモ大審院ノ裁判權内ニ屬スヘキモノニアラス例ヘハ地方裁判所ニ於テ受理シタル事件ヲ嫌疑ノ爲メ他ノ同級ナル地方裁判所ニ移スニ付テノ訴ハ控訴院ニ於テ其裁判權ヲ

有スルカ如キ是レナリ然レモ本法ノ施行前ニ受理シタルモノニ付テハ新法ノ手續ニ依ラシムルノ限りニ在ラサルヘシ何トナレハ既ニ大審院ニ於テ受理シタルモノヲ相當ノ裁判所ニ移シテ裁判セシムルトキハ審判ニ時日ヲ浪費スルノ不利アルノミナラス之カ爲メ審判上ニ錯雜ヲ來タスノ恐レナシトセサレハナリ故ニ既ニ大審院ニ於テ受理シタルモノハ當然其裁判權ヲ有スト否トヲ問ハス同院ニ於テ裁判スヘキモノトセリ

第三條 既ニ發シタル勾留狀收監狀ハ此法律ニ定メタル勾留狀ノ効ヲ有ス

本條ハ此法律ノ施行前ニ於テ既ニ發シタル勾留狀及ヒ收監狀ノ効力ヲ示シタルニ外ナラス即チ法文ニ掲クルカ如ク既ニ被告人ニ對シテ發シタル勾留狀又ハ收監狀ハ此法律ニ定メタル勾留狀ト同一ノ効力

ヲ有スヘキモノトセリ是レ他ナシ舊治罪法ニ於テ定メタル勾留狀ノ効力ニハ一定ノ期間ヲ有シ之ニ反シテ收監狀ノ効力ハ無期間ニ屬セシヲ以テナリ此両狀ヲ選擇スルノ權ハ一ニ豫審判事ニ屬セシメヨリト雖モ勾留狀ニ付テハ既ニ一定ノ期間ヲ經過スルトキハ其豫審未タ終結ヲ告ゲサルニ拘ハラス更ニ勾留狀ヲ發スルニアラサレハ被告人ヲ勾留スルコトヲ得サルノ規定ナリ故ニ既ニ發シタル勾留狀又ハ收監狀ヲシテ此法律ニ定メタル勾留狀ト同一ノ効力ヲ有セシメサルトキハ更ニ勾留狀ヲ發シテ前勾留狀又ハ收監狀ニ繼續セシメサルヘカラス斯ノ如キハ徒ラニ手數ヲ要スルノミニシテ毫モ被告人ニ利害ノ關係ヲ及ボスヘキモノニアラス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第四條 此法律ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ

吏員ニ屬ス

本條ハ此法律ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務アル場合ニ於テ未タ市町村長ノ設置アラサル地ハ從來其職務ヲ行フタル吏員ニ於テ之ヲ行フヘシト云フニ過キサルモノトス今日ハ既ニ市町村制ヲ實施セラレタルヲ以テ本條ヲ特設スルノ必要ナキカ如シト雖モ猶ホ未タ其實施ヲ爲サ、ル地ナキニアラス殊ニ北海道沖繩縣及ヒ島嶼ノ如キハ市町村制ノ實施果シテ何レノ時ニ在ルヲ知ルヘカラス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ而シテ此法律ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ犯罪ノ捜査ニ關スル第四十七條ノ場合告發ニ關スル第五十二條ノ場合及ヒ臨檢搜索ニ關スル第四百四條ノ場合等はレナリ

第五條 此法律ハ明治廿三年十一月一日ヨリ施行シ其日ヨリ治罪法ヲ廢ス

本條ハ此法律ノ施行期日ト舊治罪法ノ廢止トヲ指示シタルニ過キス
シテ既ニ此法律ヲ施行セラレタル今日ニ於テハ之ニ説明ヲ付スルノ
必要ナシ故ニ贅セズ

余ハ茲ニ本法ノ解説ヲ終ルニ當リ尙ホ稍々講義ノ勞ヲ執ラサル
可カラサルモノアリ何ツヤ曰ク陪審制度ノ事ト重罪輕罪ノ控訴ニ
係カル豫納金規則ノ事是レナリ一ハ本法ニ其規定ナキニ由リ直接
ノ關係ナシト雖モ讀者ノ參考ニ供シテ利益アリ一ハ本法ノ附則ト
シテ實際ニ其關係ノ密切ナルモノアリ故ニ共ニ之レヲ茲ニ講説ス
ルハ全ク無益ノ勞ニ非サルノミナラス極メテ讀者ヲ裨益スルアラ
シヲ期スルナリ先ツ陪審制度ニ就テ講説ヲ試ム可シ
陪審官トハ佛語ニ之レヲジユレトト云ヒ英語ニ之ヲジユリート云
フ共ニ宣誓シタル裁判官ヲ指稱スル詞ナリ今佛國法典ニ依リテ陪

審ノ組成ヲ按ズルニ何人ニ限ラス滿三十歳ニシテ政權及ヒ民權ヲ
享有スルニ非サレハ陪審員ノ職務ヲ履行スルコトヲ得ス而シテ陪
審員ト選舉會員中ト退隱ニ於ケル陸海軍士官法學部理學部文學部
中ノ一部又ハ數部ノ學士及ヒ得業生醫學士學士館員及ヒ通信員國
王(共和國大統領)ヨリ認メラレタル其他ノ學社ノ社員職務執行ノ三
箇年ニ及ヒタル公證人中ヨリ之レヲ選ム可キモノトス(佛國治罪法
第三百八十一條)州長ハ右ノ資格ニ據リ作りタル總姓名表中ニ就キ
自己ノ責任ヲ以テ翌年ノ陪審ノ用ニ供スル爲メ一個ノ姓名表ヲ拔
萃シテ直チニ之レヲ司法卿控訴裁判所長及ヒ檢事長ニ之レヲ送付
スレハ重罪裁判所ノ開始ヨリ少クトモ十日以前ニ控訴裁判所長ハ
州長ヨリ送付セラレタル姓名表中ニ就キ其會議繼續時間ノ陪審員
ノ姓名表ヲ組成スル所ノ三十六名ノ人員ヲ抽籤シ尙ホ右ノ他法律

ニ定メタル附加ノ陪審員四名ヲ抽籤ス可キモノトス(佛國治罪法第
三百八十七條第百八十八條)而シテ陪審ヲ組成スルニハ陪審員十
二名ノ員數ヲ必要ナリトスレトモ若シ重罪ノ訴カ長キ辨論ヲ要ス
可キ性質ノモノト思ハル、時ハ重罪裁判所ニ於テ陪審員ノ姓名表
抽籤ノ前ニ十二名ノ陪審員定數ノ外更ニ其辨論ニ立會フ可キ陪審
員一名又ハ二名ヲ抽籤ス可キ旨ヲ命令スルコトヲ得可シ(佛國治罪
法第百九十四條)斯ノ如ク陪審ノ設ケ具ハリタルニ及ヒ重罪公判
ノ開廷セラル、ヤ訊問ニ先チ裁判長ハ着席ノ陪審官ニ向テ一場ノ
演詞ヲ爲ス其意ハ陪審官ヲシテ其職掌ノ性質ト其權利本分トノ區
域ヲ知ラシムルニ在リ且ツ演詞ノ終リニ於テ陪審官ノ宣誓ヲ要ム
ル旨ヲ述ヘ陪審官ヲシテ起立セシメ再ヒ一條ノ宣誓文ヲ朗讀ス此
朗讀終レル後陪審官ハ各々其氏名ノ呼立ニ應シ余ハ之レニ誓フト

答フ而シテ其演詞及ヒ宣誓文ノ如キハ各々法律ヲ以テ規定スル所
アリ今日本治罪法草案ニ規定セル陪審心得書ヲ掲クレハ實ニ左ノ
如シ

陪審心得書 法律ハ陪審ヲ以テ職務至重ナル臨時裁判官トス依テ
當時裁判官ト共ニ該會ニ付シタル重罪事件ヲ裁判ス可シ蓋シ法律
ハ重大ナル事件ヲ裁判スルノ權ヲ以テ單ニ常務トスル官吏ニ委任
スルコトヲ欲セス公衆ヲシテ其裁判ヲ尊信セシムル爲メ一般人民
ヲシテ之ニ干預セシム故ニ重罪被告人ハ同等ノ者ノ裁判ヲ受ケ社
會ハ自テ其利益ヲ保護ス可キナリ

陪審ノ職務タル至重ナル責任ナリト雖モ亦是レ至大ナル名譽ナリ
夫レ陪審ノ裁判ス可キ事件ハ必ス被告人ノ名譽ニ關シ又ハ自由若
クハ生命ニ管ス令其裁判ノ權ヲ以テ陪審ニ委任スルハ法律ニ於テ

其公直ト智識トヲ信憑スルヲ以テナリ
陪審ノ職務ハ唯公訴ノ事實ヲ判決スルニ在リ凡ソ民刑ヲ問ハス法
律ヲ論議シ之ヲ適用スルハ當時裁判官ノ職務ニシテ陪審ノ干預ハ
可キ所ニ非ス然レトモ陪審ノ職務タル褫職ナラス抑モ其審理ス可
キコトハ審ニ公訴狀ニ記載シタル所爲アリヤ被告人ノ本犯ニ相違
ナキヤニ止ラヌ心上ノ罪ヲ組成スル所ノ被告人ノ自由誡別及ヒ犯
意アリシヤヲ推究シ且事實ノ點ト法律ノ點ト牽連シテ分離スルコ
ト能ハサルトキハ併セテ之ヲ判決ス可シ
辨論ヲ終ルノ後裁判長ヨリ各被告人ニ對スル主タル事件附帶ノ事
件加重若クハ宥恕ノ模様又ハ無罪ノ事由ニ付キ問題書ヲ交付ス可
シ蓋シ是等ノ問題ハ多クハ豫審中發覺シタル證據ニ依ルト雖モ辨
論中被告事件ノ變更シタルトキ又ハ新ナル附帶ノ事件發覺シタル

時ハ別段之ヲ付スルコトアル可シ若シ同一ノ事件ニシテ罪質ノ變
更ス可キ模様アルニ因リ二個以上ノ問題ヲ付シタル場合ニ於テハ
最初ノ問題ニ付キ否ト決シタルニ非サレハ其他ノ問題ニ付キ投票
ヲ爲ス可カラヌ
陪審ハ問題ニ付キ單ニ然又ハ否ト答フルニ過キサレ而已故ニ數件
ヲ包括シテ一問題ト爲スハ務メテ之ヲ避ク可キモノトス然レトモ
刑ニ影響ヲ生セサル條件ニ付テハ必スシモ然ラサルモノアリ然則
陪審ハ一箇ノ條件ニ付テハ然一個ノ條件ニ付テハ否ト決ス可キモ
ノトスル時ハ數件ヲ分テ投票ヲ爲スモ適宜タル可シ
陪審ハ其職務權限又ハ問題ノ意義ニ付キ疑アルトキハ商議室ニ於
テ檢察官及ヒ辯護人ノ立會ニ依リ裁判長ノ説明ヲ求ムルコトヲ得
法律ニ於テ定メタル陪審ノ商議ニ管スル一切ノ規則ハ陪審ヲシテ

其職務ニ注意セシムル爲メ拔書ヲ以テ之ヲ示明ス陪審ハ各事件ニ付キ抽籤ノ爲メ又裁判陪審ハ既ニ着手シタル事件ノ辨論ニ立會フ爲メ出廷ス可シ且其裁判言渡アルマテ被告事件ニ付キ外人ト通接ス可カラズ

陪審ハ其決議ス可キ事件ニ付キ自由ニ討論スルコトヲ得然レトモ各陪審ノ獨立ヲ維持スル爲メ投票ハ之ヲ秘密ニ爲ス可シ

法律ハ均一ニ各陪審ヲ信任スルヲ以テ陪審長ノ職務ハ第一ノ籤ニ當リタル者之ヲ行フ可シ若シ第一ノ籤ニ當リタル者其職務ヲ辭スルトキハ投票ヲ以テ之ヲ撰任シ其旨ヲ問題書ニ記載ス可シ

今事實ノ搜索ヲ容易ナラシムル爲メ陪審ノ面前ニ於テ自由且充分ナル辨論ヲ爲サシム可シ豫審ニ於テ集取シタル證據ハ公判ニ於テ更ニ之ヲ差出スニ非サレハ其効ナキニ依リ陪審ハ被告人證人ノ供

述及ヒ證據書類檢證調書ノ朗讀ニ立會ヒ且慎テ自己ノ意見ヲ發露スルコトナク其必要ナリトスル條件ニ付キ被告人又ハ證人ニ問ヲ付スルコトヲ得然ル後原被ノ對質辨論ニ依リ其證據ノ當否ヲ認定ス可シ

然レトモ法律ハ陪審ニ對シ云々ノ證據ニ依リ心證ヲ資ル可シト命スルニ非ス唯其事實ヲ推究スルハ陪審ノ智識ニ在リ被告人ノ意思ト善惡トヲ觀察スルハ陪審ノ本心ニ在リトス又法律ハ陪審ノ資テ心證ト爲シタル證據及ヒ其判決ノ理由ヲ指示ス可キコトヲ命セス唯其認定スル所ニ從ヒ事實ノ申立アランコトヲ欲スル而已其申立ハ法律上看テ以テ真正ノモノナリトス

法律ハ被告人ノ心上ノ罪惡及ヒ犯罪ニ因リ生シタル社會ノ損害ノ細微ナル差異ニ至テハ之ヲ豫定スルコト能ハス又其年齡身位智愚

罪愆之深淺及七教育ノ厚薄ニ因リ罪狀百出ナルヲ以テ法律ニ於テ
 豫定セサル加重宥恕ノ模様ハ之ヲ申立ルコトヲ許サス。雖モ陪審
 ノ本心ニ從ヒ酌量減刑ノ模様アリトスルトキハ被告人ノ利益ノ爲
 ヲ其申立ヲ爲スコトヲ得若シ陪審其干豫ス可カラサル刑法ノ嚴正
 ヲ屈撓シ又ハ公直ト慈仁トヲ調和スル爲メ猥ニ酌量減刑ノ模様ア
 リトシ申立ヲ爲スハ自己ノ職務ニ背キ立法官ノ原意ニ戾ルモノト
 ス又其申立ヲ以テ疑惑ヲ蔽フノ具ト爲スニ至テハ最モ甚シキモノ
 ト云フ可シ若シ疑惑アルトキハ被告人ノ利益ノ爲メ決答ス可キコ
 トヲ遺忘ス可カラス
 陪審其權限ヲ越タルコトナク且商議ノ爲メ定メタル規則ニ背カサ
 ルトキハ其申立ハ動カス可カラサルモノトス惟其申立ノ當否ヲ監
 察スル者ハ其名譽ニシテ之ヲ是非スル者ハ其本心アル而已慎テ事

實ヲ推究スルニ注意ス可シ
 法律ハ陪審ニ偏重偏輕ナキ二個ノ利益ヲ信任ス即チ虚心平意ヲ以
 テ裁判ス可キコトヲ要スル所ノ被告人ノ利益及ヒ陪審自ラ其利益
 ヲ保護スルニ因リ額増ニ至ラサル所ノ社會ノ利益是ナリ。陪審
 心得書ハ斯ノ如ク纏々長文ニ沙ルト雖モ要スルニ名譽ト良心トニ
 照シ併セテ神ト人トニ誓ヒ會審ノ重罪事件ノ裁判ヲ分擔ス可シト
 云フニ在リ

又治罪法草案ニ據リテ宣誓書ヲ掲クレハ實ニ左ノ如シ
 予ノ名譽及ヒ本心ニ循ヒ慎テ重罪事件ニ付テハ原被ノ證憑ヲ審
 査ス可キコト、社會ト被告人トノ利益ヲ妨害セサルコト、裁判言渡
 ニ至ルマテ其干預シタル事件ニ付キ外人ト通接セサルコト、愛憎
 畏懼ノ念ヲ生セサルコト及ヒ辨論中差出シタル原被ノ證憑ニ依

リ自由正直ナル裁判官ニ適應スル公平ト嚴格トヲ以テ予ノ心證
ヲ資リ決答ス可キコトヲ誓フ
裁判長ハ右ノ宣誓書ヲ朗讀シタル後各陪審ハ其氏名ノ呼立ニ應シ
宣誓ス可キコトヲ答ヘ宣誓書ニ署名捺印ス可キモノトス
以上ニ掲ケタル所ハ治罪法草案ニ記スル陪審心得書及ヒ宣誓書ニ
シテ殆ント佛國治罪法ニ定ムルモノニ異ナラス然シテ佛法ニ定ム
ル所ハ最モ簡單ニシテ陪審誓ヲ爲スニハ必ク其手ヲ舉クルヲ要ス
其意上帝ト衆人トニ誓ヒ兼テ其本心ト名譽トニ誓フニ在リ其他陪
審ニ關スル諸々ノ規定アリト雖モ今其煩ヲ避ケテボアソナード氏
ノ治罪法草案ニ讓ル讀者若シ是レヲ細カハ一讀シテ陪審ノ何物タ
ルヲ了解スルヲ得ヘシ
茲ニ陪審制度ノ起原沿革ヲ原ヲ讀者ノ參考ニ供セントスルニ抑モ

陪審制度ハ遠シ羅馬ノ古法ニ胚胎シタルモノニシテ或ル論者ノ説
クカ如ク決シテ英人若クハ佛人ノ腦漿ニ出テタルモノニ非ス論者
動モスレハ今日歐洲諸國ニ陪審ノ美制ヲ見ルニ至リタルハ全ク英
國人ノ創設ニ出テタリト云フ者アリ然レモ余ノ信スル所ヲ以テス
レハ謬説ヲ甚シキモノト云ハサルヲ得ス此ノ如キ説ヲ爲ス者ハ多
ク英國人若クハ英國法ヲ尊崇スル者ニシテ固トヨリ取ルニ足ラス
ト雖モ數言ヲ述ヘテ其妄ヲ辨スルモ亦決シテ無益ノ業ニ在ラサル
可シ思フニ英國カ最初陪審制度ヲ採用スルヤ着々之レカ改良進歩
ヲ謀リシヲ以テ其結果遂ニハ諸國ヲシテ之レニ模倣セシムルニ至
リタルハ掩テ可カラサル事實ニシテ余モ亦其功ノ顯著ナルヲ認ム
ト雖モ是レ唯英國カ陪審制度ヲ改良進歩セシメタルニ過キス換言
スレハ附加ノ意匠ヲ盡シタルニ過キスシテ未タ其創設ノ功ヲ以テ

自ラ任ス可カラサルナリ實ニ陪審制度ノ起原ハ羅馬ノ古法ニ在ル
 ハ殆ト爭フ可カラサル事實ニシテ之レヲ一脈ノ鑛山ニ譬フレハ其
 之レヲ發見シタル者ヲ羅馬トシ次ニ之レヲ採掘シ之レヲ鑄冶シテ
 廣ク諸國ニ供給シタル者ヲ英國ト爲スハ大ヒニ其當ヲ得タルカ如
 シ即チ創業ノ功ハ羅馬自ラ之レニ當リ改良進歩ノ功ハ英國自ラ之
 レニ當ルト云フハ最モ至當ナルカ如シ以下聊カ此制度ノ沿革ニ付
 キ陳述スル所アル可シ
 始メ羅馬ニ於テ陪審官ヲ用ヒタルハ民事損害賠償ノ金額ヲ決定シ
 又ハ原被權利ノ有無ヲ判定スル場合等ニ限り決シテ之レヲ刑事ニ
 用ヒタルコトナク其職務ノ權限區域ハ殆ント今日ノ民事鑑定人ノ
 如クニテアリシナリ爾來封建制度ノ盛ナルニ及ヒ諸國往々陪審ノ
 制度ヲ刑事裁判ニ適用スルニ至リタリ雖モ是レ唯貴族僧侶ノ犯

罪ニ關スル裁判ニノミ適用シタルニ過キヌ故ニ此善美ナル制度ハ
 特リ貴族僧侶ノ占有物ニシテ身分平民ニ在ル者ハ到底其恩澤ニ浴
 スル能ハス徒ラニ平民ヲシテ其不幸ヲ嘆セシムルノミナリシナリ
 蓋シ此陪審制度ヲ貴族僧侶ニ限り適用シタル所以ヲ尋ヌルニ貴族
 僧侶ニハ各々其身分ニ應スル所ノ慣習例規ノ存スルニモ係ラス此
 慣習例規ヲ熟知セサル他ノ者ヲシテ是レカ裁判ヲ爲サシムルトキ
 ハ或ハ慣習ニ戾リ例規ニ背クノ裁判ヲ爲スコトナキヲ保セス斯ノ
 如クナルニ於テハ彼ノ「ジュエス、パール、ペール」即チ同等ノ者ニ據レル
 裁判ト云ヘル原則ニ反スルモノナリ故ニ貴族ニ係ル犯罪事件ニ就
 テハ貴族ヲシテ之レヲ裁判セシメ又僧侶ニ係ル犯罪事件ニ就テハ
 僧侶ヲシテ之レヲ裁判セシムルヲ以テ自ラ彼ノ「ジュエス、パール、ペ
 ル」ノ原則ニ適合シタルモノナリト爲シタルナリ然レトモ貴族僧侶

ニ限り同等ノ者ニ依レル裁判ノ原則ヲ適用シテ之レヲ平民ニ適用セザリシハ當時ノ一大闕典ト云ハサル可カラサルナリ
 以上ニ陳述シタル所ハ特リ羅馬ノミナラス最初歐洲諸國カ陪審制度ヲ採用シタル時ノ有様ニシテ今日ヨリ之レヲ見レハ實ニ不具ノ制度タルヲ免レザリシカ爾來幾十年ノ後ニ至リ英國ニ於テ大ニ之レカ改革ヲ加ヘタリ此改革コソ英國人カ陪審制度ノ創造者ナリト揚言スルニ至レルヲ原因ニシテ他諸國ノ學者ト雖モ敢テ之レヲ爭ハサル所ノモノナリ其改革トハ即チ陪審裁判ノ區域ヲ擴張シテ獨リ貴族及ヒ僧侶ノ專有ニ止メス平民ノ犯罪事件ニ就テモ亦此陪審制度ヲ適用スルニ至リタルコト是レナリ是ニ於テカ荷モ英國人タル者ハ其身分ノ如何ヲ問ハス等シク陪審裁判ノ恩澤ニ浴スルコトヲ得ルニ至リ英國ノ刑事訴訟上ニ一段ノ光彩ヲ添ヘタリ當時英人

ノ之レヲ解スル所ヲ聞クニ曰ク凡ソ人類社會ノ生活ニ付テハ數多ノ階級アリテ各階級互ニ生活ノ度ヲ異ニシ生活ノ度ヲ異ニスルニ從ヒ自ラ人情慣習及ヒ智識ヲ異ニス特リ生活ニ因リテノミナラス地理氣候ニ因リテモ亦是レヲ異ニス設令ハ粗野賤陋禮義ノ如何ヲ知ラサル者ノ間ニ在リテハ一時ノ怒氣ニ乘シテ其妻子家族ヲ毆打嘲笑スルカ如キハ殆ト通常ノ事柄ニシテ他人ノ之レヲ見ル者亦敢テ怪マサル可シト雖モ若シ之レヲシテ彼ノ學者紳士智識アリ禮義ヲ知ル者ノ間ニ在ラシメン歟實ニ默過ス可カラサルノ罪狀ナリト云ハサル可カラス前者ノ如キハ充分ノ意思ヲ具備シテ之レヲ爲シタルニ非スシテ單ニ一種ノ忌ム可キ習慣ト云フモ敢テ不可ナキニ非サレハ之レヲシテ普通ノ罪責ヲ負ハシム可カラス宜シク無罪ト爲スカ然ラサレハ充分ノ酌量ヲ爲ス可キナリ之レニ反シテ後者ノ

場合ニ於テハ其犯罪ノ意思ヲ具備スルヤ充分ナルヲ以テ普通ノ罪責ヲ負ハシメサル可カラズ又氣候ノ溫和ナル土地ト寒暑甚シキ土地ト其風俗相同シカラス都府ノ地ト僻陬ノ地ト其習慣ヲ異ニスルモノアルニ由リ一地方ニ於テ罪ト爲ル可キモノニシテ他ノ地方ニ於テ罪ト爲ラサルコトアルハ又免レサル所ナリ然ルニ之レヲ是レ察セスシテ階級ノ上下ヲ問ハス身分ノ貴賤ヲ論セス凡テ同一ノ犯罪ニ對シテ同一ノ刑ヲ科セントスレハ其外面ノ畫一ヲ期セント欲シテ却テ裁判ノ公平ヲ害スルニ至ル可シ是レ實ニ裁判官タル者犯罪者ノ生活ノ情態其他土地ノ慣習トヲ熟知セサルノ結果ニ伴フ所ノ弊害ニシテ又如何トモス可カラサルナリ何トナレハ裁判官カ已ニ困難ナル法律ノ適用ニ從事スルカ上ニ尙ホ是等ノ情態慣習等ヲ觀察セサル可カラズトセハ是レ實ニ難キヲ人ニ責ムルモノニシテ

理ノ當ヲ得タル者ニ非ス然ラハ如何シテ此弊害ヲ除却ス可キ歟他ナシ犯罪者カ平素生活スル社會ノ人情ヲ熟知シ土地ノ情態ヲ知了スル者ヲ舉テ裁判ニ會審セシムルニ如カス果シテ斯ノ如クナルニ於テハ其舉ケラレタル者ハ犯者平素ノ行爲ヲ考察シ能ク實際ノ情態ヲ穿テ以テ裁判ノ公平ヲ得ルニ庶幾カル可シ然レトモ此裁判ノ公平ハ特リ貴族及ヒ僧侶ノ專有ニ歸セシム可キニ非ス宜シク平民ニモ亦之レヲ及ホス可シ是レ陪審制度ヲ擴張シテ一般刑事ノ裁判ニ適用スルニ至リタル所以ナリト

英國ニ於ケル陪審制度ノ進歩實ニ以上述ヘタル所ノ如クナリシカ佛國ニ於テモ一千八百七十九年ノ大革命ノ後ニ至リ英國法ヲ模擬シテ刑事ノ重大ナル事件ニ付テハ貴族僧侶平民ノ別ヲ論セス一般ニ陪審ノ會審ヲ用フルコト、爲セリ然ルニ英國ニ於テハ重罪事件

ニ付テハ豫審及ヒ公判共ニ陪審官ヲ用ヒ佛國モ亦始メハ英國ノ如クナリシモ爾後豫審ニハ陪審官ヲ用フルコトヲ廢シテ獨リ公判ニノミ之レヲ用フルコト、爲セリ思フニ重罪ハ重大ナル事件ニシテ輕々之レヲ公判ニ付スルトキハ粗漏ノ爲メ時ニ或ハ如何ナル大害ヲ生センモ計ル可カラズ故ニ其鄭重詳密ヲ失ハサラシメンカ爲メニ豫審ヲ設ケ可成的裁判ノ錯誤ヲ避ケンコトヲ努メタリ然ルニ豫審ニ之レヲ用ヒサルハ他ナシ此豫審ニ於テモ亦陪審官ヲ置キテ其事件ノ會審ヲ爲サシムルトキハ實際豫審ノ終結ト共ニ早ク已ニ其事件ヲ決定シ公判ノ如キハ殆ント一種ノ儀式ニ過キサルカ如キノ有様ヲ生セズンハアラヌ何トナレハ被告人ノ有罪無罪ハ重モニ陪審官ノ意見ニ因リ決定スルモノニシテ陪審官豫審ニ於テ有罪ト決定スレハ公判ニ於テモ亦有罪ト判決セラレ又陪審官豫審ニ於テ無罪

ト決定スルハ公判ニ於テモ亦無罪ト判決セラル可シ事若シ斯ノ如クナルニ於テハ鄭重ノ爲メニ設ケタル豫審ニシテ却テ粗漏ナル判決ヲ下ス所ノ原因トナリテ豫審ト公判トノ位地ヲ顛倒シ大ニ立法ノ精神ニ背馳スルニ至ル可ケレハナリ是レ實ニ佛國ニ於テ豫審ニ陪審制度ヲ廢シタル原因ニシテ又法理ニ適合スルモノナリト云フ可シ但シ余ノ聞ク所ニ依レハ英國ニ於テハ豫審ニ於テモ仍ホ依然ト陪審制度ヲ存スト云フ英國ノ如キ習慣ヲ重ンスル國情ニ在リテハ是レ亦宜シク然ル可キナリ

茲ニ一ノ注意ス可キコトアリ佛國ニ於テハ以上陳述スルカ如ク刑事ニ付テ陪審官ヲ置クト雖モ民事ニハ會テ之レヲ置クコトナク唯行政裁判ニ付テハ之レヲ置クコトナキニ非ス即チ公用土地買上ノ際ニ其價額ニ關シ官廳ト人民トノ間ニ起レル爭訟ノ場合ニ於テ

ハ陪審官ヲ選定シテ評決セシムルコトアリ此場合ニ於テ選定セラ
ルハ陪審官ヲ其土地ノ價額ヲ知ラサル可カラサルカ故ニ常ニ其地
方ヨリ選定セラルハナリ又裁判官ハ概テ物品ノ精粗及ヒ其價額ニ
付テ充分ナル智識ヲ有セサルカ故ニ是等ノ争アルニ當リテハ各々
其道ニ熟達スル者ヲ擧ケテ之レカ鑒定ヲ爲サシメ以テ其精粗及ヒ
價額ヲ決定セサル可カラス思フニ此ノ如キ場合アルカ故ニ民事ニ
於テモ亦陪審官ヲ用フル場合アルニ非スヤト云フ者アレトモ此鑒
定人ヲ以テ直チニ陪審官ナリト稱ス可カラサルナリ何トナレハ純
然タル陪審官ハ獨立不羈ニシテ決シテ裁判官ノ意思ニ因リテ拘束
セラルハコトナク寧ロ裁判官ハ陪審官ノ決定ニ背キタル判決ヲ下
スヘカラスト雖モ鑒定人ノ意見ノ如キハ其取捨全ク裁判官ノ權内
ニ存スルモノニシテ裁判官ハ決シテ鑒定人ノ意見ニ因リテ拘束セ

ラル可キモノニ非サレハナリ是レヲ外ニシテハ佛國ニ於テ民事ニ
陪審官若クハ陪審官ノ如キ者ヲ用フルノ例ハ決シテ是レアルコト
ナシ

以上ハ英佛ニ於ケル陪審制度ノ一斑ナリ今ヤ我邦ノ制度如何ト願
ミルニ我邦ノ刑事裁判ニ陪審ノ設ケナキハ刑事訴訟法ヲ一讀シテ
瞭然タル所ナリ而シテ是レ獨リ刑事裁判ニノミ限ルニ非ス民事ニ
於テモ亦然リトス現ニ彼ノ公用土地買上ニ關スル地代ノ争訟ニ於
テモ陪審官ノ設ケナキナリ果シテ然ラハ我立法官ハ到底陪審制度
ノ有益ヲ認メサル歟蓋シ之レヲ認メサルニアラス我邦ノ人智猶未
タ充分ニ發達セサルヲ以テ人民ヲシテ裁判ニ干預セシムルニ足ラ
スト爲スニ在リ然レトモ是レ未タ充分ノ理由ヲ盡シタルモノト云
フ可カラヌ何トナレハ人智ノ充分ニ發達セサルヲ以テ陪審制度ノ

有益ヲ否認ス可キニ非ス况ンヤ其人智ノ程度ノ如キハ到底之レヲ正實ニ測知スルコトヲ得ザレハナリ思フニ我邦泰西ノ制度ヲ輸入スルニ就テハ往々尙早ノ一言ヲ以テ之レヲ排斥スルコトアリ從來ノ經驗ニ徵スルニ新ニ發布シタル法律規則ニシテ實際ノ事情ニ適セサルカ爲メニハ直チニ之レヲ廢止シ又ハ改正シタルコトアリト雖モ其未タ發布セサルニ當リテハ大ヒニ狐疑ヲ懷キタルモノモ斷然意ヲ決シテ之レヲ實施スルニ及ヒ大ヒニ其功ヲ奏シ却テ其發布ノ遲カリシヲ悔アルコトナキニ非サルノ事實ハ余ノ屢々耳ニセル所ナリ去レハ陪審裁判ノ如キモ之レヲ實施スルニ及ンテ或ハ初メ立法官カ危フミ且ツ懼レタル弊害ヲ見ルコトナク却テ意外ノ好結果ヲ擧クルヤ未知ル可カラス然ルニ新制度ナク人智ノ適セストノ一言ヲ以テ之レヲ排斥シ敢テ實際ニ試ミルコトナキカ如キハ實

ニ大速了ノ誤見ナリト云ハサル可カラス若シ之レヲ實地ニ應用シテ利益スル所ナキカ又ハ有害ナル點アラハ之レヲ改正スルモ亦廢止スルモ決シテ遲キニアラス是レ之レヲ思ハスシテ猥リニ尙早又ハ不適ノ文字ヲ以テ之レヲ抹殺セントスルハ但諺ニ所謂「喰ハス嫌ヒ」ノ譏リナキヲ得ン乎

説キ去リ説キ來リテ余ハ茲ニ學理上陪審制度ノ利害ヲ講究セサルヲ得サルニ至レリ因リテ左ニ三個ノ非陪審論ヲ掲ケ逐一其妄ヲ辨セントス

第一非陪審論者曰ク陪審官ナルモノハ犯罪者平素ノ性質習慣等ヲ熟知スル者タラサル可カラサルヲ以テ多クハ犯罪者ト同地方ニ居住スル者ノ中ヨリ擧ケラレ且ツ陪審官ハ公平無私ノ心ヲ持スル人タラサル可カラサルヲ以テ多クハ篤實温厚ノ名望家中ヨリ擧ケラ

ル然ルニ是等ノ人犯罪者平素ノ性質習慣等ヲ熟知スト雖モ亦篤實
 温厚ナリト雖モ未ダ必シモ法律ニ通曉セリト云フヲ得ス否ナ寧ロ
 是等ノ人ハ法律ニ通曉セスト云フモ不可ナカルヘシ去レハ是等ノ
 人ハ如何ニ篤實温厚ナルモ如何ニ其犯罪者ノ性質習慣ヲ熟知スル
 モ法律ニ通曉セサルニ於テハ或ハ有罪者ヲ無罪者ト爲シ無罪者ヲ
 有罪者ト爲スコトナキヲ保セス若シ斯ノ如クナルニ於テハ陪審
 制ハ適シ以テ裁判ノ公平ヲ害シ法律ノ信用ヲ損スルニ足ル是レ實
 ニ陪審制度ヲ非トスル所以ナリト思フニ論者ノ言タル自家撞着一
 ヲ知リテニヲ知ラサルモノト云フヘシ論者ハ陪審官ハ犯罪者平素
 ノ性質習慣ヲ知り且ツ其心公平無私ナルモ法律ニ通曉セスト云フ
 ト雖モ陪審官ニ必要ナルノ條件ハ彼レニ在リテ此レニ在ラス即チ
 犯罪者平素ノ性質習慣ヲ熟知スルヲ要スルモ敢テ必ス法律ニ通曉

セサル可カラサルヲ要セス何トナレハ法律ヲ適用スルハ裁判官ノ
 任ニシテ陪審官ノ預カル所ニアラス陪審官ハ裁判官ノ命スル所ニ
 従ヒ事實ノ有無及ヒ其模様ヲ判定スルヲ以テ足レリトスレハナリ
 抑モ法律ナルモノハ之レニ向テ改正釐革ヲ施サ、ル限りハ實ニ一
 定固着ノモノニシテ彼ノ變遷極マリ無ク千態萬情ノ世態人情ニ對
 スルトキハ或ハ寬ニ流レ或ハ酷ニ失スルコトナキニ非ス之レヲ調
 和スルカ爲メ刑法上酌量減刑ナルモノアリ又刑期ニ長短アリテ其
 間ニ伸縮上下スルコトヲ許スト雖モ之レヲ適用スルニハ犯罪ノ摸
 樣ヲ審ニセサル可カラス或ハ酌量減刑ヲ以テモ尙ホ且ツ補フ能ハ
 サル場合ナキニ非ス然ルニ理論ノ一方ニシテ依據シテ裁判ヲ下ス
 トキハ或ハ實際ノ事情ニ背馳シ刑ノ適用其中ヲ失スルニ至ル可シ
 豈ニ不法ノ甚シキモノニ非ス乎支那ノ碩儒曾テ云ヘルコトアリ曰

ク一人之レヲ殺ス可シト云フト雖モ未可ナリ國人皆ナ殺ス可シト云ヒテ而シテ後之レヲ察シ其殺ス可キヲ見テ而シテ後之レヲ殺ス是レ之レヲ國人之レヲ殺スト云フト實ニ當レルモノト云フ可シ然レトモ此國人皆殺ス可シト云フコトハ如何シテ之レヲ認ムルコトヲ得可キ歟一ノ重罪事件アル毎ニ國人ヲシテ其公判廷ニ列セシムルトセン歟是レ或ハ國民ノ意想ヲ得ルコトアル可シト雖モ是レ實際ニ於テ行ヒ能ハサルコトナルヲ奈何セン乎是ニ於テ乎能ク其土地ノ情況ヲ知り犯罪者平素ノ性質慣習ヲ熟知スル者ヲ舉ケテ裁判ニ會審セシムルハ亦國民ノ公平ニ訴フルノ精神ニ近シト云フ可シ陪審制度ノ裁判ノ公平ヲ維持スルニ於テ必要ナルコト其レ斯ノ如シ然ルニ何故ニ論者ハ單ニ其法律ヲ知ラスト云フヲ以テ之レヲ排斥セントスル歟余ハ其理由ヲ見サルナリ況ンヤ前ニ述フルカ如ク

陪審官タルモリ必シモ法律ニ通曉スルヲ要セサルニ於テオヤ第二非陪審論者曰ク陪審官ニ選定セラル、所ノ者ハ各國率テ溫厚篤實ノ白頭翁ナリ然ルニ被告人ニ附隨スル所ノ辨護人ハ率テ敏捷活潑ノ法律家ニシテ而カモ最モ辨舌ニ巧ミナル者ナリ此法律ニ通曉セル敏捷活潑ノ辨護人ニシテ其得意トスル所ノ巧辨ヲ弄シ篤實溫厚ナル白頭翁ヲ瞞着シ去ルコトナキニ非ス設令ハ玆ニ一個ノ重罪犯人アランニ辨護人ハ夙ニ法律上之レヲ辨護スルノ論據ナキヲ察シ他ノ回保策ヲ案出シ巧ミニ白頭翁ヲ瞞着シ去ラントシ徐々ニ說出シテ曰ハン賢明ニシテ寬量ナル陪審官諸公ヨ諸公ハ今本件ヲ審理スルニ當リテ如何ナル感覺ヲ惹起セラシカ諸公カ親シク認知セラル、カ如ク本件ノ被告人ハ極惡無道ノ犯法者ニシテ固トヨリ法律ノ制裁ヲ免カル可キ者ニアラスト雖モ茲ニ最モ可憐ナル事情

アリ諸公ノ寛容ヲ仰カサル可カラサルモノアリ被告人ハ其犯シタル罪ニ對シテ刑罰ノ責任ヲ負フ可キハ辨護人ニ於テモ亦之レヲ認ムル所ナリ然レモ被告人ニハ病牀ニ臥シテ命旦夕ニ迫ルノ老母アリ又數人ノ幼兒アリテ被告人ノ給養ヲ仰ケリ家最モ赤貧ナレハ被告人ノ勞働ニ依リテ得タル賃銀ヲ以テ纔カ縷々タル寒烟ヲ揚グルノ有様ナリ彼ノ法廷ノ一隅ニ佇立シテ嗚咽嗚啼スル者ハ實ニ被告人ノ妻子ナリ今若シ被告人ニシテ諸公ノ決定ニ因リ重罪ノ刑ニ處セラレ長ク鐵窓ノ下ニ呻吟スルノ身トナルニ於テハ老母ハ忽チ玉ノ緒ヲ斷チ妻子ハ悉ク飢寒ニ死スルノ慘境ニ陥ル可シ被告人ノ罪固ヨリ嚴刑ニ處ヌ可シト雖モ彼ノ老母妻子ニ於テ何カアランヤ刑ハ固ト一身ニ止マルヲ以テ原則ト爲ス然ルニ被告人ノ爲メ強イテ其老母妻子ニ苦痛ヲ與フルニ於テハ刑ヲ一身ニ止メサルト何ソ異

ナラシ乎今夫レ是レヲ諸公ノ身上ニ推擬セバ思ヒ半ニ過クルモノアラン諸公固トヨリ法律ヲ犯スカ如キコト將來ニ於テ決シテ是レナカル可シ然レモ萬々一誤リテ法律ノ問フ所トナリ縲繼ノ身ト爲ラル、コトアルニ於テハ諸公ノ妻子ニ身体上及ヒ精神上共ニ苦痛ヲ與フルコトナシト云フ可ケン乎此時ニ當リ諸公ハ自ラ囚獄ノ苦ヲ甘セラル、ト雖モ其妻子ヲ憂フルハ點ニ於テ今ノ被告人ト異ナル所アラン乎慈仁賢明ナル陪審諸公ヨ諸公ハ諸公ノ身ニ擬シテ被告人ノ地位ヲ審セラル、トキハ果シテ如何ソヤ實ニ被告人ノ有罪無罪ハ偏ヘコ諸公ノ胸裡ニ在リ諸公ニシテ罪アリトセハ被告人ハ縲繼ノ身ト爲リ老母ハ忽チ黃泉ノ客ト爲リ妻子ハ飢寒ノ苦ニ陷ルヤ必セリ若シ又諸公ニシテ被告人ヲ罪ナシトセハ被告人ハ愛ニ自由ノ身ト爲リ老母ハ天壽ヲ全フシ妻子ハ一家團樂ノ快ヲ得ルヤ必

セリ被告人の有無罪ハ暫ク論セストスルモ老母妻子ノ命運ニ於テ其レ將タ如何シ仰キ希クハ陪審諸公ヨ海大ノ量ヲ開キ被告人ノ地位ヲ察セヨト此ノ如ク説キ去リ説キ來ル下キハ陪審官ノ心動キ情感シ遂ニ有罪ノ人ヲ無罪ト爲シ天下復タ法律ナルモノアルナキニ至ル是レ實ニ陪審制度ノ痛弊トスル所ナリト然レトモ是レ實ニ探ルニ足ラサル愚論ト云フ可シ若シ陪審制度ニシテ辯護人ノ巧言令色ノ爲メ痛弊ヲ生スト云ハ、裁判ニ付キ何物カ其弊ナカラン乎裁判官モ之レカ爲メニ其裁判ヲ誤マラル、コトアル可ク檢事モ之レカ爲メ其判断ヲ迷ハサル、コトアル可シ然レトモ是レ辯護人其者ノ痛弊トスル所ニシテ敢テ陪審官其人ノ痛弊ニアラス況ンヤ判事檢事ニ於テオヤ思フニ斯ノ如キ議論ヲ以テ陪審制度ヲ非トスルハ實ニ價值ナキノ議論ト云フ可シ有情ノ人正鵠ノ判決ヲ爲シ得スト

云フノ理ハ天下ヲ通シテ決シテ是レアラサルナリ
 第三非陪審論者曰ク陪審官ハ時トシテ黨派心ヲ有スルヲ以テ時トシテ偏頗ノ裁判ヲ爲スコトナキニ非ス若シ被告人自己ノ黨派ニ屬スル者ナルトキハ内實有罪ナリトスルモ之レヲ無罪ト爲シ又若シ被告人他ノ黨派ニ屬スル者ナルトキハ内實無罪ナリトスルモ之レヲ有罪ト爲スカ如キコトナキニ非ス斯ノ如クナルニ於テハ寧ロ黨派ヲ以テ裁判ヲ爲スモノナリ裁判ノ實何レニアルカ是レ實ニ陪審ノ致ス所ナリト然レトモ是レ亦探ルニ足ラサル愚論ナリト云フ可シ何トナレハ黨派心アル者ハ獨リ陪審官ニノミ限ラサレハナリ若シ論者ノ論鋒ヲ以テセハ裁判官モ信スルニ足ラス檢事モ亦信スルニ足ラス天下復タ裁判ノ任ヲ託ス可キモノナカラントス思フニ裁判官モ檢事モ亦感情的ノ動物ナリ亦均シク黨派心ナキヲ保セン乎

固ヨリ裁判官タル者又ハ檢事タル者ノ公ケニ黨派ニ關スルコトアルハ法律ノ嚴禁スル所ナリト雖モ是レ唯タ外形上ニ過キス即チ公ケニ政黨員ト爲リ又ハ公ケニ政談演說ヲ爲ス等ヲ禁スルニ過キス如何ニ法律アリト雖モ人ノ内心ニマテ立入ルコトヲ得ン乎已ニ内心ニマテ立入ルコトヲ得ストセハ其内實黨派ノ傾向アルハ亦免レサル所ナリ此傾向アルノ故ヲ以テ裁判ヲ爲シ得ストセハ天下將タ眞ニ裁判ヲ託ス可キモノアラン乎論者ノ理論ハ畢竟空論タルヲ免レザルナリ

以上述フル所ヲ以テ畧ホ陪審制度ノ何タルヲ知了スルヲ得ヘシ其詳細ノ如キハ讀者ボアソナード氏ノ治罪法草案ヲ熟讀セハ更ニ釋然タルモノアル可シ余ハ前ニ述ヘタルカ如ク陪審制度ハ未タ我邦ノ民情ニ適セサル所アリト云フモノアルニ拘ハラヌ此善良ナル制

度ノ速ニ我邦ニ於テ實行セラレ若クハ速カニ我民情ノ陪審制度ニ適スルニ至ランコトヲ望ムモノナリ故ニ刑事訴訟法ノ附録トシテ茲ニ其一班ヲ示セリ讀者宜シクボ氏ノ治罪法草案ヲ熟讀シテ余ノ論旨如何ヲ諒知セヨ

刑事訴訟法ニ關スル釋義ハ以上ノ解説ヲ以テ全ク終尾シ充分ニ其法理ヲ研究シテ餘蘊ナカラシメタルヲ以テ讀者モ亦隔靴爬痒ノ憾ナカルヘシト信ス然レモ尙ホ新法典ノ附帶法トシテ頒布セラレタルモノニシテ刑事ニ關スルモノ亦少カラス故ニ其最モ刑事訴訟法ニ密着ノ關係アル附帶法律ヲ左ニ掲ケ毎條ニ略解ヲ附シテ以テ讀者ノ參看ニ供スヘシ

法律第七號

重罪控訴豫納金規則

重輕罪ノ控訴ニ付キ被告人ヲシテ一定ノ豫納金ヲ出サシムルノ目的
 ハ裁判費用ノ保証ニ供セシムルニ在ルハ法文ニ掲ケテ明瞭ナリ然レ
 凡重輕罪ノ控訴ニ限り保証金ヲ差出サシムルハ其理由アリテ存スル
 ヲ知ルヘシ若シ重輕罪ノ控訴ニシテ果シテ控訴ノ事由アルモノハ裁
 判上其効果ヲ生シ被告人ニ利益スルコト少カラスト雖モ正當ノ事由
 ナク唯タ前裁判ノ執行ヲ遲延セシムルノ目的ヲ以テ控訴スルモノニ
 至テハ其審判上ニ費シタル裁判官ノ勞力及ヒ審判上ノ費用ハ皆ナ徒
 勞徒費ニ歸着スルノミナラズ濫リニ控訴ヲ提起スルノ弊ヲ生スルニ
 至ルハ必然ナリ今此等ノ弊ヲ豫防スルニハ裁判費用ノ保證トシテ一
 定ノ金額ヲ豫納セシムルノ外ナカルヘシ今日何レノ邦國ト雖モ此規
 則ノ設ケアラサルモノナキハ蓋シ控訴濫起ノ弊ヲ豫防スルノ得策ハ
 此他ニ在ラサルヲ以テナリ然レモ被告人ハ其資力ノ有無ニ拘ハラズ

必ス一定ノ豫納金ヲ出スニアラサレハ假令第一審ノ裁判カ不當ト
 認ムル事由ノ存スルアルモ之ニ對シテ控訴スルノ道ナシトセハ亦是
 レ貴重ノ權利ヲ抑制スルモノト云ハサルヘカラス斯ノ如キハ寧ロ上
 訴ノ道ヲ杜絶シ強イテ權利ヲ枉屈セシムルノミナラス往々冤枉ノ中
 ニ沉淪セシムルノ大弊害ヲ招クニ足ルモノト云フヘシ故ニ重輕罪ノ
 控訴ニ付キ豫納金ヲ出サシムルノ規則ヲ設クルニ付テハ又無資力者
 ノ爲メ萬一ノ冤枉ヲ免カレシムルノ方法ヲ設ケ置カサルヘカラス蓋
 シ是レ重罪ノ控訴ニ關スル裁判費用ノ保證ニ付キ特ニ本法ノ規定ア
 ル所以ナリ

第一條 重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者控訴ヲ爲サン

トスルトキハ裁判費用ノ保證トシテ金貳拾圓ヲ豫
 納ス可シ

重罪ノ旨渡ヲ受ケタル者カ其處刑ニ對シテ控訴ヲ爲ストキハ金貳拾圓ヲ豫納スヘシトハ本條法文ノ明示スル所ナリ同シク是レ刑ノ旨渡ヲ受ケタル者ニシテ輕罪ノ控訴ニ付テハ金拾圓ヲ豫納スルヲ以テ足レリトシ獨リ重罪ニ付テ一倍ノ金額ヲ豫納セシムルモノハ何ソヤ假令ヘ其罪ニハ輕重ノ差アリトスルモ第一審ノ裁判未タ確定セサルノ間ハ果シテ有罪者トハ認ムヘカラス然ルニ其控訴ニ付キ豫納金額ニ差違アルモノハ蓋シ公平ヲ失スルノ嫌ヒナシトスル乎曰ク然ラス重罪ト輕罪トハ何レノ場合ト雖モ之ヲ區別セサルヘカラス假令ヘ前裁判ハ未タ確定セサルモ犯罪ノ事實上ノ嫌疑ハ依然トシテ繼續スルモノナリ故ニ重罪ノ旨渡ニ對スル控訴ニ關スル裁判費用ノ保證ニ付テハ之ヲ輕罪ト區別シ輕罪ニ付テ金拾圓ヲ豫納セシムルトキハ之ニ一倍シテ金貳拾圓ヲ豫納セシムルハ至當ノ規定ナリト云フヘシ否ラサ

レハ罪ニ輕重ノ區別ヲ立テタル本義ニ悖ルモスト云ハサルヘカラス而シテ此豫納金ハ控訴ノ申立カ無効ニ歸シ前裁判ヲ認可シタルトキハ當然沒收セラルヘキモノトス
 或者或ハ云フ平同シク是レ控訴ニシテ重罪ノ裁判費用カ必ス輕罪裁判ノ費用ニ一倍スヘシトハ推測スヘカラス或ル場合ニ於テハ輕罪裁判ノ費用却テ重罪裁判ノ費用ニ超過スルコトナシトスヘカラス然ルニ其保證トシテ豫納セシムル金額ニシテ罪ノ輕重ニ因リ大差アラシムルハ蓋シ其當ヲ得タリト云フヘカラス抑モ被告人ニ控訴權ヲ付與スルノ目的ハ同シク是レ萬一ニ蒙ムルヘキ冤枉ヲ救済スルニ在リトセハ其費用ノ保證金額モ亦同一ナラシメテ可ナルニアラスヤト此言亦一應ノ道理ナキニアラサルカ如シト雖モ元來控訴ニ關スル裁判費用ノ保證金額ハ實際ノ費用如何ヲ想像シテ之ヲ定ムヘキモノニアラ

又唯々濫リニ裁判所ノ手數ヲ煩ハシ且ツ前裁判ノ執行ヲ遅延セシムルノ弊害ヲ豫防スルニ外ナラス殊ニ重罪ヲ犯シタル者ニシテ尙且無益ノ控訴ヲ提起シ以テ其刑ノ執行ヲ遅延セシムルアラハ罪惡ヲ懲罰シテ良民ヲ保護スル公益上ノ目的ヲ妨碍スルモノト云ハサルヘカラス蓋シ是レ重罪ノ控訴ニ關スル豫納金ハ輕罪控訴ノ場合ニ一倍セシメタル所以ナリ

第二條 重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者貧困ニシテ保

證金ヲ豫納スル能ハサルトキハ控訴ノ申立ト同時

ニ保證金ノ免除ヲ請求スルコトヲ得

本條以下ノ規定ハ貧困者ニシテ萬一ニ裝フルヘキ冤枉ノ不幸ヲ救済スルノ目的ニ出ツルモノトス前條ノ規定ニ依レハ重罪ノ言渡ニ對シテ控訴スル者ハ必ス裁判費用ノ保證トシテ金貳拾圓ヲ豫納スヘク否

ラサレハ其訴權ヲ利用スルコトヲ得サルカ如シ若シ果シテ然ルトキハ貧困者ノ不幸ハ亦大ナリト云フヘシ何トナレハ貧困者ハ如何ナル控訴ノ事由アリテ存スルモ唯々其保證金ヲ豫納スルコト能ハサルカ爲メ空ク血涙ヲ吞ンテ止ムノ外アラサレハナリ斯ノ如キハ亦法律ヲ以テ人ノ權利ヲ抑壓スルモノト云ハサルヘカラス矧ンヤ民事訴訟法ニ於テ費用救助ノ規則ヲ設クルニモ拘ハラス若シ刑事上ノ控訴ニ於テ費用免除ノ規定ヲ欠カハ民刑ノ法律其平衡ヲ失スルノ嫌ヒヲ免カレサルニ於テヲヤ故ニ重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ト雖モ實際貧困ニシテ前條ノ保證金ヲ豫納スルコト能ハサルモノハ控訴ノ申立ヲ爲スト同時ニ保證金ノ免除ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトセリ蓋シ此規定ハ民事訴訟法第九十一條ニ照應シタルモノニシテ其目的ハ保證金ヲ豫納スルコト能ハサルカ爲メ貴重ノ訴權ヲ利用スルコト

ヲ得サル者ヲ救助スルニ外ナラス

(民事訴訟法第九十一條ニ曰ク何人ヲ問ハス自己及ヒ其家族ノ必用ナル生活ヲ害スルニ非サレハ訴訟費用ヲ出タスコト能ハサル者ハ訴訟上ノ救助ヲ求ムルコトヲ得但其目的トスル權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ非スト見ユルトキニ限ル)

第三條 保証金ノ免除ヲ請求シタル者ハ其請求ヲ爲シタル日ヨリ十四日內ニ控訴ノ趣意書ト共ニ裁判費用支辨ノ資力ナキコトヲ証スヘキ住居地市町村長ノ證明書ヲ差出スヘシ但其市町村役場三里以外ニ在ルトキハ治罪法第十九條ニ規定シタル猶豫ヲ與フ

保証金ノ免除ヲ請求スルノ特權ハ獨リ貧困者ニ限リ之ヲ付與スヘキモノタルハ前條ノ規定ニ據ケテ明瞭ナリ然レモ其請求ニ付テ一定ノ手續ヲ定メ置カサルトキハ亦貧困ヲ辞柄トシテ實際幾分ノ資力ヲ有スル者モ亦保証金ノ負擔ヲ免カレントスルノ弊害ヲ生スルノ憂ヒナシトセス元來保証金ノ免除ハ實際貧困ニシテ之ヲ出タスノ資力ナキ者ヲ救助スルニ在ルヲ以テ其免除ノ請求ヲ爲スニ付テハ實際貧困者ニシテ資力ナキコトヲ證セシメサルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

今夫レ被告人ヲシテ裁判費用ヲ支辨スルノ資力ナキコトヲ証セシメシ乎此証明ハ單ニ本人ノ申立ニ止マラシムルトキハ未タ以テ信認ヲ置ムニ足ラス何トナレハ其申述ハ詐僞ニ出ツルコトナシトセサレハナリ故ニ裁判費用支辨ノ資力ナキコトヲ証セシムルニハ本人住居地ノ市長若クハ町長又ハ村長ノ證明書ヲ受ケテ之ヲ差出スヘキモノト

ス此規定ニ依レハ假令ハ實際貧困ナルニセヨ又相當ノ事由アルニセヨ市町村長カ其資力ナキコトヲ證明スルニアラサレハ保證金ノ免除ヲ許サ、ルコト勿論ニシテ斯ノ如ク定ムルトキハ詐偽ノ申述ニ因リテ保證金ノ免除ヲ得ルノ弊害ハ決シテ之ヲ生セサルモノト斷言シテ可ナルヘシ何トナレハ市町村長ハ先ツ其實際ノ情況如何ヲ調査スルニアラサレハ妄リニ證明書ヲ授付セサルヘキハ言ヲ俟タサレハナリ右ノ證明書ハ控訴ノ趣意書ト共ニ之ヲ差出スヘシトハ法文ノ明示スル所ナリ前條ノ規定ニ依レハ保證金ノ免除ハ控訴ノ申立ト同時ニ爲スヘシトアルニ拘ハラヌ市町村長ノ證明書ハ控訴ノ趣意書ト共ニ差出スヘシトアルモノハ何ソヤ是レ他ナシ左ノ理由アリテ存スレハナリ控訴ノ期間ハ不變期間ニシテ判決言渡アリタル日ヨリ起算シ五日以内ニ起訴セサルヘカラス(刑事訴訟法第二百五十二條)而シテ此五日

内ニ市町村長ノ證明書ヲ受ケルハ實際ニ於テ困難ナリト推測セサルヘカラス故ニ保證金ノ免除請求ト證明書ノ差出トノ間ニ相當ノ期間ヲ有セシメサルヘカラス是レ其請求ヲ爲シタル日ヨリ起算シ十四日ノ期間内ニ於テ控訴ノ趣意書ト共ニ市町村長ノ證明書ヲ差出スヘキモノト定メタル所以ナリ

又市町村長ノ證明書ハ控訴ノ趣意書ト共ニ差出スヘシト云フノ點ハ亦宜シク注目スヘキノ點ナリ何トナレハ第五條ノ規定ニ於テ控訴ノ事由ナシト認ムルカ又事由アルモ實益ナシト認ムルトキハ保證金ノ免除ヲ與ヘサル場合アルヲ以テ控訴ノ趣意書ト共ニ之ヲ差出サシメサルトキハ市町村長ノ證明書モ亦其効用ヲ爲サ、レハナリ是レ市町村長ノ證明書ハ必ズ控訴ノ趣意書ト共ニ差出スヘキモノト定メタル所以ナリ

然レトモ被告人ノ住居地ト其市町村役場トノ間ニ於ケル距離カ三里以外ニ在ルトキハ亦例外ヲ以テ論セサルヘカラス何トナレハ路程ノ遠隔ナルカ爲メ本條前段ノ期間内ニ其證明書ヲ受クルコト能ハサル場合ナシトセサレハナリ唯々夫レ路程ノ遠隔ナルカ爲メ保證金ノ免除ヲ證明スルコトヲ得ヌシテ遂ニ控訴權ヲ失ハシムルアラハ亦是レ權利保護ノ精神ニ悖ルモノト云ハサルヘカラス是レ本條ニ但書ヲ附加シ其市町村役場三里以外ニ在ルトキハ治罪法第十九條ニ規定シタル猶豫ヲ與ヘ即チ陸路ハ八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フル所以ナリ而シテ今日ハ既ニ治罪法ヲ廢止セラレタルヲ以テ本條但書ノ場合ニ於テハ刑事訴訟法第十六條ノ規定ヲ適用スヘキハ蓋シ言ヲ俟タサルヘシ本條ノ規定ハ亦是レ民事訴訟法第九十三條ノ規定ニ照應シタルモノナルハ明カナルヲ以テ左ニ該條ヲ揭ケテ讀者ノ參看ニ供ス

(民事訴訟法第九十三條ニ曰ク訴訟上救助ノ申請ハ訴訟ノ關係ヲ表明シ且證據方法ヲ開示シテ其救助ヲ求ムル審級ノ裁判所ニ之ヲ提出ス可シ其申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
原告若クハ被告ハ申請ノ提出ト共ニ管轄市町村長ヨリ發シタル證書ヲ出タスコトヲ要ス其證書ニハ原告若クハ被告ノ身分、職業、財産並ニ家族ノ實況及ヒ其納ム可キ直税ノ額ヲ開示シテ訴訟費用支拂ノ無資力ヲ證ス可シ)

民事訴訟ノ救助ニ付テハ斯ノ如ク當事者ノ身分、職業等ヲモ證明セサルヘカラスト雖モ刑事ニ付テハ唯々其無資力ナルコトヲ證スレハ以テ足レリトス是レ他ナシ刑事ノ制裁ニ於テハ身體ノ拘束ヲ受クルヲ以テ特ニ身分職業等ヲ證明セシムルノ必要アラサレハナリ

第四條 前二條ニ記載シタル書類ハ訴訟ニ關スル一

切ノ書類ト共ニ第一審裁判所ノ檢事ヨリ控訴院ノ
書記課ニ之ヲ送致スヘシ

本條ノ規定ハ前二條ニ掲ケタル保證金ノ免除申立ニ關スル書類及ヒ
無資力ノ證明書ノ送致手續ヲ定メタルニ過キスシテ特ニ説明ヲ要ス
ルノ點ナシ蓋シ本條ハ刑事訴訟法第二百五十六條ニ訴訟記録ハ檢事
ヨリ控訴裁判所ノ檢事ニ送致スヘシトアルニ基クモノニシテ此送致
モ亦檢事ヨリ之ヲ爲サシムルモノハ他ナシ檢事ハ社會ノ代表者タル
ヲ以テ右等ノ書類ヲ取扱フノ權アルノミナラス市町村長ヨリ授付シ
タル證明書ニシテ若シ偽造ニ係ルカ如キ嫌疑ノ存スルキハ之ニ對シ
テ亦公訴ヲ起スノ權アルヲ以テナリ之ヲ要スルコト檢事ハ右等ノ書類
ノ眞否ヲ檢閲スルノ權アルヲ以テ又之ヲ送致スルコトヲ掌ラシムト
云フニ外ナラス

第五條 控訴院ハ檢事ノ意見ヲ聽キ保證金免除請求
ノ當否ヲ決定スヘシ但控訴ノ事由ナシト認ムルカ
又ハ事由アルモ實益ナシト認ムルトキハ免除ヲ與
ヘサルモノトス

本條ハ保證金免除請求ノ當否ニ關スル決定法ヲ規定シタルニ外ナラ
ス即チ控訴院ハ前條ニ掲ケタル第一審裁判所ノ檢事ヨリ書類ノ送致
ヲ受ケタルトキハ先ツ檢事ノ意見ヲ聽キ而シテ其請求ノ當否ヲ決定
スヘキモノトス斯ノ如ク控訴院カ檢事ノ意見ヲ聽キタル上ニアラサ
レハ其當否ヲ決定スルコトヲ得サルモノト法定シタルハ他ナシ檢事
ハ社會ノ代表者タルヲ以テ凡ソ刑事ニ關スル事項ニ付テハ意見ヲ述
フルノ職權ヲ有シ裁判官ハ亦先ツ社會ノ代表者ノ意見ヲ聽クヘキ義
務ヲ負フヲ以テナリ且保證金ノ免除ヲ請求スルノ必要ハ前裁判ヲ不

當トシ更ニ適當ナル裁判ヲ受ケントスルニ付テ生スルモノナルカ故ニ此請求ニ付テ先ツ檢事ノ意見ヲ述ヘシムルハ公明ノ決定ヲ爲スニ付テ亦甚々必要ナリトス何トナレバ檢事ノ意見ハ保證金ノ免除ヲ請求スルノ事由ナシト認ムルニモ拘ハラヌ裁判官ノミノ心證ヲ以テ其當否ヲ決定スルカ如キアラハ亦至公至正ノ道ニ悖ルノ嫌ヒナシトセサレハナリ是レ本條前段ノ規定アル所以ナリ

右ノ如ク請求ノ當否ヲ決定スルニハ檢事ノ意見ヲ聽キタル上ニテ之ヲ爲スヘシト雖モ其決定ハ唯タ保證金免除ノ請求ニ付テ其當否ヲ決定スルニ止マリ本案ニ關係ヲ及ボサ、ルコト勿論タルヘシ果シテ然ラハ唯タ其請求カ至當ノ理由アリト認ムルトキハ之ヲ許サ、ルヘカラスシテ亦或ハ前裁判ノ執行ヲ遲延セシメントスル目的ニ出ツルモノモ亦貧困者ナルトキハ之ヲ拒絕スルコトヲ得サルカ爲メ此法律ヲ

設ケタル目的ヲシテ烏有ニ歸セシムルノ憂ヒナシトセヌ是レ本條ニ但書ノ附加アル所以ナリ

此但書ニ依レハ假令ハ保證金免除ノ請求ハ至當ナリト決定スルモ控訴カ相當ノ事由ナキモノト認ムルカ又ハ其事由アルモ被告人ニ取リテ實益ナキモノト認ムルトキハ其免除ヲ與ヘサルモノトス是レ至當ノ規定ナリト云フヘシ何トナレハ控訴ノ事由ナキカ又ハ事由アルモ實益ナシト認ムルニ拘ハラヌ尙ホ之ニ免除ヲ與ヘテ其控訴ヲ成立セシメサルヘカラサルモノトセハ亦妄リニ控訴ヲ提起シテ刑ノ執行ヲ遲延セシムルノ弊害ヲ惹起スルニ至ルハ必然ナレハナリ而シテ右ノ如ク免除ヲ與ワルト否トヲ決定スルハ控訴院ノ職權内ニ在ルコト勿論ナルヲ以テ公判手續ヲ開始セサル前ニ之ヲ決定スヘキモノタルハ敢テ疑ヒテ客レサルヘシ何トナレハ既ニ公判手續ヲ開始スルトキハ

裁判費用モ亦應サニ生スヘキヲ以テナリ
本條モ亦是レ民事訴訟法ノ規定ニ照應シタルモノナルハ明カニシテ
之ヲ要スルニ無益ノ控訴ニ付テハ保證金免除ノ特典ヲ與マルノ限リ
ニ在ラスト云フニ外ナラス爰ニ又民事訴訟法ノ規定ヲ掲ゲテ參看ニ
供スヘシ

(民事訴訟法第百一條ニ曰ク裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後訴
訟上救助ノ付與並ニ辯護士附添ノ命令ニ付テノ申請訴訟上救助
ノ取消及ヒ數額追拂ノ義務ニ付キ決定ヲ爲ス

此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 保證金ノ免除ナキトキハ控訴ノ申立ハ其効
ナキモノトス

本條ハ前條但書ノ結果ヲ指示シタルニ外ナラス保證金免除ノ請求ハ

元來前裁判ノ不當ニ對シテ爲シタル控訴ヲ成立セシムルニ在ルヲ以
テ保證金ノ免除ヲ得ルト否トハ實ニ控訴ノ成立ト否トヲ確定スヘキ
ノ効力ヲ生スルモノトス故ニ保證金ノ免除ヲ與ヘラレサルトキハ控
訴ノ申立ハ其効力ナク即チ成立セサルモノトス是レ他ナシ保證金ノ
免除ヲ與ヘサルハ控訴ノ事由ナキモノト認ムルカ又ハ事由アルモ實
益ナキモノト認ムルトキニ在ルヲ以テ其免除ヲ與ヘラレサルトキハ
控訴申立ノ効力ヲ生スルノ謂ハレナケレハナリ故ニ前條但書ノ規定
ニ該當シ保證金ノ免除アラサルトキハ控訴ハ最初ヨリ提起アラサリ
シモノト同一ノ結果ヲ生スヘキモノトセリ

然レモ本條ノ規定ハ保證金ノ免除ヲ請求シタル者ニ對シテノミ適用
スヘクシテ保證金ヲ豫納シタル者ニ付テハ其控訴ハ棄却ノ言渡ヲ受
クルマテ控訴ノ事由ノ有無ニ拘ハラヌ成立シタルモノト看做スヘキ

ハ論ヲ俟タサルヘシ何トナレハ第一條ノ規定ヲ踐行スル者ハ當然控訴ヲ爲スノ權利ヲ取得スレハナリ

第七條 被告人ニ於テ證人、鑑定人ノ呼出ヲ請求スル

トキ第一條ノ保證金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テ

ハ別段其費用ヲ豫納セシム

刑事ノ控訴ニ付キ一定ノ豫納金ヲ出サシムルハ裁判費用ノ保證タルニ外ナラヌトスルハ第一條ノ明示スル所ナリ而シテ重罪ノ言渡ニ對シテ爲シタル控訴ニ付テハ貳拾圓ノ保證金ヲ豫納セシムト雖モ元ト是レ豫算タルニ過キサレハ必シモ充分ナリトハ斷定スヘカラス故ニ訴訟ノ進行中ニ於テ特別ノ費用ヲ生スルトキハ別段ニ其費用額ヲ豫納スヘキハ當然ナリトス否ラサレハ第一條ノ豫納金ニテ不足ヲ生シタルトキハ國庫ヨリ之ヲ補助スルノ外ナカルヘクシテ是レ固ヨリ許

スヘキモノニアラス何トナレハ國ハ資力アル者ノ爲メニ裁判費用ヲ負擔スルノ義務アラサルハ論ヲ俟タサレハナリ

是故ニ被告人ニ於テ自己ノ利益ノ爲メ證人又ハ鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキハ其費用即チ日常其他ノ費用ヲ負擔スヘキハ當然ナルモノトシ若シ第一條ノ保證金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テハ別段ニ其費用ヲ豫納セシムヘキモノトス此規定ニ依レハ其豫納金ヲ出サ、ルトキハ證人又ハ鑑定人ノ呼出ヲ許サレサルハ勿論ナルヘシ然レモ此點ニ付テハ往々例外ヲ生スルコトアルヘシ例ヘハ第一條ノ保證金ヲ豫納スルノ資力アリシ者モ證人又ハ鑑定人ノ呼出ヲ請求スルニ至テ資力全ク盡キタルトキハ如何ナル結果ヲ生スヘキヤ證人又ハ鑑定人ハ被告人ノ無罪ヲ證明スル場合等ニ於テ最モ必要ナルニ拘ハラヌ若シ別段ニ其費用ヲ豫納セサル者ハ其請求權ヲ失フヘキモノトセハ被告

人ノ不利タルコト亦僅少ナラサルヲ想像スヘシ何トナレハ證人又ハ鑑定人ノ陳述ニシテ裁判官ノ心證ヲ動かスニ足ルトキハ前裁判ヲ取消シ更ニ無罪ノ言渡ヲ受クルニ至ルコトナシトセサレハナリ好シヤ無罪ノ言渡ヲ受ケサルモ多少其罪ヲ減等セラル、ニ至ルハ曾テ其實例ニ乏シカラサルナリ

其レ然リ被告人ハ證人又ハ鑑定人ヲ呼出ヲ得サルカ爲メ回復スヘカラサル不利ヲ來タスノ場合アルモノト想像セハ宜シク之ヲ救助スルノ道ヲ設ケサルヘカラス然レモ此法律ニ於テ此等ノ點ニ關シ何等ノ規定ヲモ設ケサルハ蓋シ一缺典タルカ如シト雖モ既ニ保證金ノ免除ヲ得セシムルノ道ヲ與フル以上ハ右等ノ例外ナル場合ニ於テモ亦保證金ノ免除ヲ得セシムルハ蓋シ疑ヒヲ容レサルヘシ何トナレハ貧困ナル者ノミニ限り全ク保證金ノ免除ヲ得セシメ第一條ノ保證金ヲ豫

納シタル者ハ既ニ全ク資力ノ盡キタルニ拘ハラヌ別段ノ豫納金ハ之ヲ免除スルノ限リニ在ラスト云フカ如キアラハ法律ハ偏頗ノ嫌ヒヲ免カレサレハナリ故ニ前陳例外ノ場合ニ於テハ第二條第三條及ヒ第五條ヲ適用シ得ヘキハ立法者ノ説明ヲ俟テ後チ知ラサルナリ

○

輕罪ニ係ル控訴豫納金ハ明治十四年十二月第七十四號ノ布告ヲ以テ始メテ之ヲ定メラレ明治十八年一月六日之ヲ廢止セラレ更ニ輕罪ニ係ル控訴豫納金規則五條ヲ制定セラレタリ此規則ハ同年ヨリ實施セラレタルヲ以テ今其解說ヲ下ス、必要ナシ唯タ此規則ハ明治二十三年六月廿八日法律第四十七號ヲ以テ改正削除セラレタルモ其訂正ノ點ハ重罪ニ係ル豫納金規則ト同一ノ標準ニ基キタルニ過キサレハ爰ニ其改正削除ノ點ノミヲ掲ケ以テ讀者ノ參看ニ供スヘシ

第一條(二十三年六月廿八日法律第四十七號ヲ以テ削除)

第二條(同上)

第三條 被告人公訴ニ關シ控訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ

保證トシテ金拾圓ヲ豫納スヘシ(二十三年六月二十八日法律第四

十七號ヲ以テ公訴ノ裁判官渡ニ對シトアルヲ公訴ニ關シト改メ

此條ハ重罪ニ係ル豫納金規則第一條ト同一ノ法理ニ出ツ)

第四條 被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ前條保證

金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ

(此條ハ重罪ニ係ル控訴豫納金規則第七條ト同シ)

第五條(二十三年六月二十八日法律第四十七號ヲ以テ削除)

○

明治二十三年九月二十日法律第八十六號ヲ以テ頒布セラレタル間接

國稅犯則者處分法ハ亦是レ刑事訴訟法ニ附屬スル法律ト看做スヘキ
モノナルヲ以テ左ニ之ヲ掲ケテ每條ニ畧解ヲ附シ以テ讀者ノ參看ニ
供スヘシ

間接國稅犯則者處分法講義

第一章 犯則事件取調

間接國稅トハ直接國稅ト區別シタル名稱ニシテ同シク是レ國庫ニ收
入スヘキモノナリト雖モ直接ニ收入スルモノト間接ニ收入スルモノ
トノ區別アリ本法ハ間接國稅ノ犯則者ヲ處分スル方法ヲ規定シタル
モノニシテ即チ特別法ノ一種ナリトス
間接國稅ニハ數多ノ種類アリト雖モ其重モノナルモノハ證券印紙訴訟
印紙酒造稅醬油釀造稅烟草印紙賣藥印紙等是レナリ酒造又ハ烟草ノ
如キハ其營業稅ハ直接國稅ニ屬シ其釀造稅又ハ印紙ハ即チ間接國稅

ニ屬シ其區別判然タルヘキモノトス此間接國稅殊ニ烟草印紙又ハ賣
 藥印紙又ハ證券印紙ノ如キハ之ヲ貼用スルト否トハ國庫ノ收入ニハ
 増減ヲ生スルコト必然ナルモ其需要者ニ對シテハ損益ノ影響ヲ及ホ
 スヘキモノニアラス故ニ供給者ト需要者トノ間ニ黙諾ヲ表シ往々印
 紙ヲ貼用セスシテ取引スル者アルハ世人ノ知ル所ナリ今此犯則者ニ
 寛假シ之ヲ不問ニ附スルカ如キアラハ當タニ國庫ノ收入ヲ減少スル
 ノミナラス法律ハ遂ニ徒法ニ歸スルニ至ルヘシ故ニ其犯則者ヲ處分
 セサルヘカラスト雖モ此等ノモノハ刑事訴訟法中ニ規定スヘキモノ
 ニアラス何トナレハ右等ノ犯則者ニ對スル處分ハ刑法ヲ以テ論スヘ
 キモノニアラス即チ行政上ノ處分タルニ過キサレハナリ是レ特ニ其
 處分法ヲ制定セラレタル所以ナリ

第一條 間稅官吏間接國稅ニ關スル犯則アルコトヲ

認知シ若ハ思料シタルトキハ其家宅倉庫其他ノ場
 所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

犯則者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物
 件ヲ藏匿スト思料スルトキハ間稅官吏其場所ニ立
 入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

間稅官吏證憑集取ヲ爲ストキハ間稅官吏タルノ證
 票ヲ携帶スヘシ

本條ハ間稅官吏ノ職權内ニ於テ爲シ得ヘキ處分ノ程度ヲ規定シタル
 ニ外ナラス即チ間稅官吏ハ間接國稅ニ關スル犯罪者アルコトヲ認知
 シタルトキ若クハ犯則ノ所爲アルモノト思料シタルトキハ其家宅ハ
 勿論倉庫其他ノ場所ニ立入り証憑ト爲ルヘキモノヲ集取スルコトヲ
 得トハ第一項ノ明示スル所ナリ而シテ此場合ハ例ヘハ印紙ヲ貼用セ

サル烟草ヲ賣買スルコトヲ認知シ又ハ酒造ノ石數ヲ偽リ其届出ニ超過シタル釀造ヲ爲シタルコトヲ認知シタル場合ノ如キ是レナリ右等ノ犯則ヲ認知スルモ現ニ印紙ヲ貼用セサル烟草又ハ届出ノ石數ニ超過シタル造酒量ヲ集取スルニアラサレハ犯則ノ證據未タ充分ナリト云フヘカラス而シテ之ヲ集取スルニハ其家宅ニ立入り又ハ倉庫ニ立入り若クハ其物ヲ貯藏スル場所ニ立入ラサルヘカラス故ニ間稅官吏ニ付與スルニ犯則ノ證據ヲ集取スルカ爲メニハ犯則者ノ家宅倉庫ニ立入ルノ權ヲ以テシ亦猶ホ刑事訴訟法第九十一條ノ規定ニ於テ豫審判事ニ證據集取ノ權ヲ與ヘタルト同一ナラシメタリ

然レハ犯則者アルコトヲ認知シタル場合ニ於テハ前陳ノ如ク其家宅又ハ倉庫ニ立入ラシムルハ當然ナリト雖モ犯則者アリト思料スル場合ニ於テモ亦其權ヲ行使スルコトヲ得セシムルハ亦或ハ弊害ヲ生ス

ルノ憂ヒナシトスヘキ乎例ヘハ間接官吏カ妄リニ威權ヲ弄シ犯則ノ情況存セサル者ニ對シテモ亦家宅搜索ヲ行フカ如キ是レナリト然レハ間接國稅ノ犯則ニ至テハ外部ニ發表セサルモノ最モ居多ナリト想像セサルヘカラス然ルニ若シ犯則ノ嫌疑アルモノト思料スルトキト雖モ正ニ其犯則ヲ認知スルニアラサレハ家宅搜索ヲ行フコトヲ得サルモノトセハ往々ニシテ證據ヲ湮滅セシメ不正ノ利益ヲ貪ラシムルニ至ルハ免カレ難キノ憂ヒナリト云フヘシ蓋シ是レ犯則者アリト思料スル場合ニ於テモ亦家宅搜索ヲ爲スコトヲ得セシムル所以ナリ若シ夫レ間稅官吏カ妄リニ威權ヲ弄スルカ如キアラハ是レ例外ニシテ此場合ニ於テハ刑事訴訟法ニ依リ告訴スルモ不可ナキハ勿論ナリ

第二項ハ犯則者カ他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スル場合ニ於テモ亦其家屋等カ何人ノ所有ニ係ルヲ問ハ

又第一項ノ場合ト同シク其場所ニ立入りテ證憑集取ヲ爲スモ妨ケナキコトヲ指示シタルニ外ナラヌ是レ他ナシ犯則者ハ其犯則物ヲ自己ノ家屋又ハ倉庫ニ藏匿スルトキハ發露シ易キノ憂ヒアルヲ以テ之ヲ他人ノ倉庫ニ寄託シ置クガ如キハ往々ニシテ之レ有ルヲ以テナリ然レモ第二項及ヒ第二項ノ處分ヲ行フトキハ間稅官吏ハ先ツ間稅官吏タルニ相違ナキコトヲ示メサルヘカラス否ラサレハ間稅官吏ト偽リ家宅搜索ヲ爲シテ惡事ヲ行フ者亦往々ニシテ之レ有ルモノト想像セサルヘカラス是レ第三項ノ規定アル所以ニシテ右ノ處分ヲ行フトキハ間稅官吏ハ必ズ間稅官吏タルノ證票所屬官廳ヨリ授付セラレタル證票ヲ携帶スヘキモノトス若シ此證票ヲ携帶セサルトキハ假令ハ犯則者ト認知スルモ證憑集取ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ニシテ犯則者モ亦之ヲ拒ムコトヲ得ヘキハ蓋シ言ヲ俟タサルヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ犯則者若ハ犯則ニ係ル物

件其間稅官署ノ管轄區域外ニ在ルトキハ其地ノ間

稅官署ニ證憑集取ヲ囑託スルコトヲ得

間稅官吏ニシテ尙クモ犯則者アルコトヲ認知シ若クハ犯則アリト思料スルトキハ何レノ場合ト雖モ寛假スヘキニアラス故ニ若シ前條ノ場合ニ於テ犯則者若クハ犯則物カ其犯則ヲ認知シ若クハ思料シタル間稅官署ノ管轄區域外ニ在ルトキハ其地ノ間稅官署ニ囑託シテ證憑集取ヲ爲サシムルモ不可ナキモノトス是レ他ナシ管轄區域外ニ在ルモノニ付テハ一ノ便宜法ヲ設ケ置カサルトキハ證憑集取ノ時機ヲ失シ遂ニ之ヲ湮滅セシムルノ憂ヒアルヲ以テナリ

第三條 間稅官吏ハ犯則事件ノ搜查ニ關シ必要ナリ

ト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

間税官吏カ第一條ノ規定ニ依リ犯則事件ノ搜查ヲ爲スニ當テヤ犯則者ハ其證憑ノ擧カランコトヲ恐レ種々ノ辭柄ヲ設ケテ其搜查ヲ拒ミ其甚シキハ暴行ヲ以テ之ニ抵抗スルカ如キ場合蓋シ之レ無シトスヘカラス此等ノ場合ニ於テハ間税官吏ハ如何ニシテ其搜查ヲ爲スヘキヤ警察官吏ノ援助ヲ求メテ之ヲ爲スコト甚ク必要ナリトスヘシ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第四條 間税官吏證憑集取ヲ爲ストキハ本人若ハ其同居ノ親族又ハ傭人ヲシテ立會ハシムヘシ本人及同居ノ親族傭人俱ニ其家ニ在ラサルトキハ警察官吏又ハ市町村吏員若ハ鄰佑二名以上ヲ立會ハシムヘシ

本條ハ刑事訴訟法第七十八條及ヒ第四百四條ニ基因スル規定ニシテ間

税官吏カ犯則事件ノ搜查ヲ爲スハ全ク其證憑ヲ集取スルノ外ニ出テスト雖モ荷クモ人ノ家宅又ハ倉庫ニ立入りテ之ヲ爲ストキハ亦濫リニ之ヲ爲スヘキモノニアラス何トナレハ間接官吏ノ惡意ヲ以テ證憑ヲ構造シ(貼用シアリタル印紙ヲ除却スル等ノ所爲)又ハ種々ノ不當所爲ヲ行フコトナシトハ斷言スヘカラス故ニ其搜查ヲ行フトキハ本人若クハ其同居ノ親族(本人ノ不在ナル場合)又ハ其傭人(親族ノアラサル場合)ヲシテ立會ハシムヘキモノトス
若シ搜查ニ際シテ右等ノ者ノ其家ニ在ラサルトキハ將ク之ヲ奈何スヘキヤ此場合ト雖モ搜查ヲ行ハサルヘカラスハ勿論タリ是レ本條後段ノ規定アル所以ニシテ即チ警察官吏又ハ市町村吏員若クハ鄰佑即チ隣家ノ者二人以上ヲ立會ハシムヘキモノトス而シテ鄰佑ヲ立會ハシムル場合ニ於テハ必ス二人以上ヲ要セシムルモノハ他ナシ鄰佑

ハ元來關係ナキ事項ニ付キ已ムヲ得スシテ立會ヲ爲スモノナレハ若シ一人ヲシテ其場ニ立會ハシムルトキハ後日ニ至リ犯則者ノ犯則ヲ曲庇センカ爲メ其立會ヲ無効ニ歸セシメントスルカ如キ所爲ヲ行フカ如キノ憂ヒナシトセサルヲ以テナリ

第五條 間税官吏家宅搜索及物件差押ヲ爲スハ日出ヨリ日没マテノ間ニ限ルヘシ但現行犯ノ場合又ハ店舗ヲ公開シ商品ヲ店頭ニ展列シタル時間ニ於テハ此限ニアラス

本條ハ刑事訴訟法第七十八條第三項ト同一ノ精神ニ出ルヲ以テ特ニ説明ヲ要スルノ點ナシ宜シク刑事訴訟法第七十八條第三項ノ解ヲ參看セハ自ラ解了セラルヘシ唯タ愛ニ一言スヘキハ但書ノ場合是レナリ現行犯ノ場合ニ於テハ刑事訴訟法第六十條ヲ准用スヘキハ當然ニ

シテ時刻ノ如何ヲ問フヘキモノニアラス又我國ノ慣習トシテ商家ノ多數ハ日没後ト雖モ尙ホ數時間ハ店舗ヲ公開シ商品ヲ店頭ニ展列スルコト其常ナリ且此時間ハ其商品ヲ賣買スルヲ以テ實際上ヨリ論スルトキハ日没前ニ異ナラス故ニ日没後ニ全ク其店舗ヲ閉鎖スルモノニ付テハ本條規定ノ時間ヲ遵守セサルヘカラスト雖モ其店舗ヲ公開スルモノニ至テハ日没後ト雖モ其公開スル時間ニハ家宅搜索又ハ物件差押ヲ爲スモ不可ナキハ當然タリ何トナレハ其實際ハ白晝ニ異ナル所アラサレハナリ是レ本條ニ但書ノ附加アル所以ナリ

第六條 間税官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得

本條ハ間税官吏カ臨檢ヲ行フ場合ヲ規定シタルモノニシテ蓋シ告發

者アリタル場合ニ屬スルモノト解釋シテ可ナルヘシ何トナレハ間稅
官吏カ第一條又ハ第二條ノ證憑集取ヲ行フ場合ニ於テハ臨檢ヲ以テ
論スヘキモノニアラサレハナリ故ニ本條ハ告發者アリタル場合ニ於
テ果シテ犯則物件アルヤ否ヤヲ檢査スルカ爲メ犯則者ノ家宅又ハ犯
則物ヲ隱匿スル場所ニ臨シテ之ヲ行フ場合ナリトス而シテ此場合ニ
於テ犯則者及ヒ證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問
スルコトヲ得ヘシトハ法文ノ明示スル所ナリ蓋シ本條ノ規定ハ刑事
訴訟法第百十條ニ基クモノニシテ其尋問ハ犯則ニ付テノ必證ヲ定ム
ルカ爲メ之ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ行フモノト知ルヘシ

第七條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲スニ由リ犯則
物件ヲ發見シタルトキハ之ヲ差押ヘテ封印若ハ認
印ヲ爲シ差押目錄ヲ作り市町村吏員又ハ鄰佑若ハ

本人ニ之ヲ預ケ其預リ證ヲ徵スヘシ若シ之ヲ間稅
署若ハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其領收證ヲ取
置クヘシ

差押物件ヲ市町村吏員若ハ鄰佑ニ預ケ又ハ間稅署
若ハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其差押目錄ノ謄
本ヲ本人ニ交付スヘシ

本條ハ亦是レ刑事訴訟法第百六條ヨリ出ツルモノニシテ證憑集取ノ
處分ヲ行フニ付キ必要ナル手續ヲ規定シタルニ外ナラス間稅官吏カ
犯則ノ證憑ヲ集取スルハ其犯則ノ事實ヲ證スルカ爲メ之ヲ要スルモ
ノタルハ明カナルヲ以テ果シテ犯則物件ヲ發見シタルトキハ之ヲ保
全スルノ處分ヲ行ハサルヘカラス否ヲサレハ證憑湮滅ヲ來タヌノ憂
ヒアリ故ニ犯則物件ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ差押ヘテ之ニ封

印シ若クハ認印シテ復タ之ヲ處分スルコトヲ得サラシキルハ甚ク必要ナル手續ナリトス然レモ其犯則物ノ所有權ハ仍ホ犯則者ニ屬スルコト勿論ナルヲ以テ間稅官吏ハ其差押ヲ爲シタルト同時ニ差押目錄ヲ作り市町村吏員又ハ鄰佑若クハ本人ニ之ヲ預ケ其預リ證ヲ徵スヘキモノトス而シテ犯則物ヲ預クル場合ハ蓋シ釀酒及ヒ醸具等ヲ差押ヘ間稅官署ニ運搬シ得サル等ノ場合ニ屬シ之ヲ運搬シ得ヘキモノハ間稅官署若クハ間稅分署ニ送致スルヲ至當ノ手續ト爲スヘシ是レ第一項ノ末文アル所以ニシテ此送致ヲ爲シタルトキハ其送致ヲ受ケタル間稅署ヨリ領收證ヲ取置クヘシトハ法文ノ明示スル所ナリ是レ他ナシ若シ領收證ヲ取置カサルトキハ後日ニ至リ其送致物ヲ紛失シタル等ノ場合ニ於テ之ヲ證スルコト能ハサルヲ以テナリ

前條ノ規定ニ依リ差押物件ヲ本人ニ預ケタル場合ニ於テハ其差押物

ノ何タルコトヲ表示スルノ必要ナシト雖モ之ヲ市町村吏員若クハ鄰佑ニ預ケ又ハ間稅署若クハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其差押物ノ何タルコトヲ本人ニ知ラシメサルヘカラス否ラサレハ後日ニ至リ差押ヘサリシ物件モ亦差押ラレタリト主張シテ其返還ヲ請求セラルベ等ノ申立アリタル場合ニ於テ之ヲ打消スコトヲ得サルヘシ故ニ右ノ場合ニ於テハ其差押目錄ノ謄本ヲ本人ニ交付シ其差押ヘタル物件ノ何タルコトヲ知ラシメ置クヘキモノトセリ

第八條 間稅官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人

ニ限ラス其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得

前數條ニ記載シタル處分ヲ行フハ全ク犯則ノ證憑ヲ集取スルニ在ルヲ以テ或ハ之ヲ妨碍スル者ナシトスヘカラス例ヘハ犯則者ノ親族又ハ親友等ニシテ其證憑ヲ毀滅セシメンカ爲メ處分ノ場所ニ出入シテ

冥々ノ中ニ之ヲ妨碍シ又ハ強暴手段ヲ以テ之ヲ妨碍スルカ如キ是レナリ故ニ右等ノ妨碍アルカ又ハ妨碍アラント思料スルトキハ之ヲ防止スルノ處分ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ其處分ハ何人ニ限ラス其場所ニ出人スルコトヲ禁スルノ外ナカルヘシ是レ刑事訴訟法第百十一條ニ基キ本條ノ規定アル所以ナリ而シテ間税官吏カ本條ノ規定ヲ適用スルニ際シ尙ホ之ニ服從セサル者アルトキハ第三條ヲ適用シ得ヘキハ蓋シ疑ヒヲ容レサルヘシ

第九條 間税官吏證憑集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作り之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘシ本人署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ
調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 本人ノ氏名、年齢、身分、職業、住所
- 二 犯則事件發見ノ手續及日時場所
- 三 事實ノ尋問ヲ爲シタルトキハ其尋問及陳述
- 四 差押タル証據物件及種類量數並ニ本人ノ物件ニ對スル辯解

本條ハ間税官吏カ證憑集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作成スヘキコトヲ規定シタルニ過キスシテ亦是レ刑事訴訟法第九十五條ニ基クモノタルヤ明カナリ宜シク該條ノ解ヲ參看セハ自ラ解了セラルヘシ故ニ該條ト異ナル點ニ付テ聊カ之ヲ略説スヘシ該條ニハ(署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ)トノミアリテ、本人署名捺印セス云々ノ語ナシ是レ他カシ刑事ノ豫審ニ付テハ法廷ニ於テ之ヲ爲スカ故ニ本人固ヨリ其署名捺印ヲ

拒ムコトヲ得サルハ勿論タルモ犯則ノ證據集取ノ場合ハ然ラス故ニ若シ犯則ノ事實ナシト主張シテ飽クマテモ其調書ニ署名捺印スルコトヲ拒ム場合ニ於テハ之ヲ奈何トモスルコトヲ得サルヘシ是ヲ以テ署名捺印セサル場合ニ於テハ署名捺印スルコト能ハサル場合ト同視シ其旨ヲ調書ニ附記スルヲ以テ足レリトス又調書ニ記載スヘキ事項ハ法文ニ掲クルカ如ク説明ヲ俟タヌヤ一目睹然タルヘシト雖モ唯タ第六條ニ依リ尋問ヲ爲シタルトキハ其尋問及ヒ被尋問者ノ陳述ヲ記載スヘキモノトシタルハ蓋シ刑事訴訟法第百三十一條ニ基キテ之ヲ定メ又第四ノ差押ヘタル證據物件及ヒ其種類ノ何タルコト其數量ノ幾何アルコトヲ記載セシムルハ後日其物件及ヒ種類等ニ付テ生スル争ヒヲ豫防スルカ爲メニ之ヲ要シ又茲ニ本人ノ物件ニ對スル辯解トアルハ亦是レ刑事訴訟法第百九條ニ基キタ

モノトス故ニ宜シク該條々ノ解ヲ參看スヘシ

第二章 犯則者ノ處分

第十條 間稅官吏犯則事件ノ取調ヲ終リタルトキハ

處分請求書ヲ作り一切ノ書類物件ト俱ニ之ヲ管轄

間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

本條ハ間稅官吏ニ於テ犯則事件ノ取調ヲ終了シタルトキハ其犯則ニ對スル處分請求書ヲ作り一切ノ書類及ヒ犯則物件ト俱ニ之ヲ管轄間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘキコトヲ指示シタルニ過キヌシテ亦是レ刑事訴訟法第百六十一條ノ規定ヨリ出ツルモノトス原來間稅官吏ハ犯則事件ノ取調ニ付テハ殆ント檢事及ヒ豫審判事ノ地位ニ立ツモノナルヲ以テ其取調ヲ終了シタルトキハ間稅署長若クハ分署長ニ對シテ處分ヲ請求スヘキモノトセリ

第十一條 間税署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ調書及
 其他ノ書類ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其
 犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金
 ニ相當スル金額沒收ニ該ル者ハ沒收スヘキ物品並
 ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作
 リ之ヲ本人ニ送達スヘシ
 前項ノ處分ハ罰金及沒收品ノ價額合計三十圓ヲ超
 出サルトキニ限り間税分署長之ヲ爲シ其他ハ間税
 署長之ヲ爲スモノトス

本條以下數條ノ規定ハ亦是レ刑事訴訟法第百六十六條乃至第百六十
 九條ニ基クモノナルハ明カニシテ即チ豫審ノ終結ヨリ裁判手續ニ移
 ルト同一ノ標準ニ出ツルモノトス而シテ本條ハ前條ニ定メタル處分

請求ニ對シ其處分ヲ行フ手續ヲ指示シタルニ外ナラス即チ間税署長
 又ハ分署長ハ犯則事件ノ調書及ヒ其他ノ書類ヲ調査シ果シテ犯則者
 ト認ムルニ足ルヘキ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示
 シ罰金ノ處分ニ該タル者ハ其罰金ニ相當スル金額又沒收ニ該タル者
 ハ其沒收スヘキ物品并ニ第十六條ニ掲ケタル費用ヲ其署ニ納付スヘ
 キ旨ノ通告書ヲ作り之ヲ犯則者ト認ムル本人ニ送達スヘキモノトス
 而シテ此處分ハ間接國税ノ種類ニ因リテ定メタル特別法(煙草税)ノ罰
 則又ハ酒造税ノ罰則等ヲ云フニ依リテ之ヲ行フモノナルハ勿論ニシ
 テ且間税署長又ハ分署長ハ行政權ヲ以テ直チニ之ヲ行フノ權ヲ有ス
 ルモノトス

右ノ處分ニ付キ本人ニ送達スル通告書ハ殆ント裁判言渡ト同一ノ効
 カヲ生スルモノナルヲ以テ亦猶ホ裁判言渡ト同シク其理由ヲ明示セ

サルヘカラス否ラサレハ其効力ヲ生セサルコト勿論ナルヘシ何トナ
レハ理由ヲ附セサル裁判ハ無効ナリトノ原則ハ本條ノ場合ニ於テモ
亦適用セサルヘカラスアルハ辯ヲ俟タサレハナリ是レ法文上其犯則ト
認ムル理由ヲ明示シ云々トアル所以ナリ
第二項ハ第一項ニ掲ケタル處分ニシテ罰金及ヒ沒收品ノ價額ヲ合シ
テ三十圓ニ超過セサトキニ限り間稅分署長ニ於テ之ヲ爲シ三十圓ヲ
超過スルトキハ間稅署長之ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルニ過キサレ
ハ特ニ説明ヲ要スルノ點ナシ蓋シ此規定ハ其標準ヲ區裁判所ノ管轄
權ト地方裁判所ノ管轄權トニ取リタルモノタルハ敢テ疑ヒヲ容レサ
ルヘシ

第十二條 犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ニ承
諾スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期間ヲ過キ履

行セサル者ハ間稅署長若ハ分署長ヨリ管轄裁判所
ニ告發スヘシ

前條ノ處分ハ犯則者ヲシテ其通告書ニ掲ケタル責任ヲ履行セシムル
ハ効力ヲ生スルハ勿論タルヲ以テ犯則者ハ其通告書ノ送達ヲ受ケ通
告ノ旨ヲ承諾シタルトキハ七日以内ニ之ヲ履行スヘキモノトス而シ
テ此期間ヲ七日ト定メタルハ蓋シ第一犯則者ニ考量ノ時間ヲ與ヘ第
二處分ノ終結ヲ迅速ナラシムルニ出ツルコト辯ヲ俟タサルヘシ
然レモ前條ノ處分ハ畢竟スルニ行政上ノ處分タルニ過キサルヲ以テ
之ヲ履行セシメントスルモ之ヲ肯ンセサル者ニ對シテハ強制執行ヲ
爲スコトヲ得サルハ勿論ナリ是レ本條後段ノ規定アル所以ニシテ犯
則者若シ其通告ノ旨ヲ承諾シタルニ拘ハラス七日ノ期間内ニ之ヲ履
行セサルトキハ間稅署長若クハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發シ裁判

上ノ處分ヲ受ケシムヘキモノトス蓋シ此規定ハ犯則ノ事實明断ナル
モノモ成ルルニケ行政上ノ處分ニ止マテシメ已ムヲ得サルニアラサレ
ハ裁判上ノ處分ヲ受ケシメサルノ精神ニ出ツルコト明カニシテ之ヲ
要スルニ犯則處分ヲシテ速カニ終了セシムルノ目的ニ出ツルニ外ナ
ラス

第十三條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事
件ニ付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ通告書ニ對シテ爲シタル履行ノ効力ヲ規定シタルニ外ナラス
即チ犯則者カ通告ノ旨ヲ承諾シ前條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ履行シタル
トキハ同事件ニ付キ刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得サルモノトス
是レ他ナシ既ニ通告ノ旨ヲ履行シタル以上ハ其處分ニ對シテ何等ノ
不服モアラサルコトヲ表示シタルモノト看做スハ當然ナレバナリ否

ラサレハ其事件ハ殆ント終局スルノ期ナキニ至ルヘシ故ニ間接官吏
カ證據集取ヲ爲シタルハ強暴ニ出テタル事實ニ係ルトスルトキ又ハ
不當ノ處分ヲ受ケテ全ク損害ヲ受ケタリト思料スルトキハ第十條ノ
通知ヲ受ケタルニ拘ハラヌ其強暴ヲ告訴シ又ハ損害賠償ヲ請求セザ
ルヘカラス若シ夫レ然ラス之ヲ忍ンテ通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ
假令ヘ何等ノ事實アルモ民刑ノ兩訴權ハ當然消滅ニ歸スヘキモノト
ス

第十四條 間税官吏犯則事件ヲ覺知シタル場合ニ於
テ本人ノ住所分明ナラス若ハ犯則事件禁錮又ハ拘
留ニ該ルモノト認ムルトキ又罰金若ハ税金ヲ完納
スルノ資力ナキ者ト認ムルトキハ該事件ヲ管轄裁
判所ニ告發スヘシ

犯則者犯則物件ヲ遺留シテ逃走シタルトキハ間税
官吏其物件ヲ差押ヘテ調書ヲ作り告發ノ手續ヲ爲

スヘシ

本條ハ間税官吏ニ於テ犯則事件アルコトヲ覺知シタル場合ニ於テ證
憑集取ヲ爲サズ直チニ管轄裁判所ニ發告スヘキ場合ヲ指示シタルニ
外ナラヌ而シテ其場合ハ左ノ三箇ナリトス

其一ハ本人ノ住所分明ナラサル場合ニシテ例ヘハ印紙ヲ貼用セサル
煙草ヲ賣渡シタル嫌疑アル者カ何レヘカ逃走シタルトキノ如キ是レ
ナリ此等ノ場合ニ於テハ間税官吏ノ職權ヲ以テ本人ヲ搜索シ得ヘキ
ニアラス然レモ既ニ犯則事件アルコトヲ覺知シタル以上ハ之ヲ不問
ニ附スヘキニアラス故ニ此等ノ場合ニ於テハ直チニ管轄裁判所ニ告
發シテ至當ノ處分ヲ求ムヘキモノトス

其二ハ犯則事件カ禁錮又ハ拘留ニ該ルモノト認ムル場合ニシテ例ヘ
ハ消印アル印紙ヲ再ヒ貼用シ又ハ酒造人カ不正ノ度量衡ヲ用ヒテ其
釀造高ヲ偽ハリタルトキノ如キ蓋シ是レナリ而シテ禁錮又ハ拘留ハ
最早行政處分ヲ以テ論スヘキモノニアラス故ニ此場合ニ於テモ亦直
チニ管轄裁判所ニ告發スヘキモノトス

其三ハ罰金若クハ税金ヲ完納スルノ資力ナキモノト認ムル場合ニシ
テ此場合ニ於テモ亦管轄裁判所ニ告發セシメサルヘカラス何トナレ
ハ無資力者ニ對シテ行政處分ヲ行フモ到底終局スルコトヲ得サレハ
ナリ例ヘハ罰金又ハ税金ヲ完納セサル者ハ其不足額ヲ禁錮ニ換フル
ノ處分ヲ要スルカ如キ是レナリ而シテ此處分ハ刑事上ノ制裁ニ屬ス
ルヲ以テ行政權内ニ於テ爲スヘキノ限リニ在ラス故ニ右ノ場合ニ於
テモ亦告發ヲ爲シ裁判上ノ處分ヲ求ムヘキモノトス

第二項ハ告發ニ例外ノ場合アルコトヲ指示シタルニ外ナラス即チ犯則者カ犯則處分ヲ免カレサルコトヲ覺知シ其犯則物件ヲ遺留シテ逃走シタル場合はレナリ此場合モ亦前項第一ノ場合ニ准據スヘキヲ以テ間稅官吏ハ其遺留セル物件ヲ差押ヘ第九條ノ規定ニ從ヒテ調書ヲ作リ之ヲ添付シテ直チニ告發ノ手續ヲ爲スヘキモノトス是レ他ナシ犯則物件ヲ遺留シタルニ拘ハラズ本人既ニ逃走シタル以上ハ最早間稅官吏ノ手ヲ以テ處分シ得ヘキ場合ニアラサレハナリ

第十五條 間稅官吏ハ左ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ管

轄裁判所ニ引致シ其事件ヲ告發スヘシ

一 犯則者逃走ノ恐アルトキ

二 証憑湮滅ノ恐アルトキ

本條ハ告發ニ關スル例外ノ場合ヲ指示シタルモノニシテ間稅官吏ハ

左ノ二箇ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ管轄裁判所ニ引致シテ其犯則事件ヲ告發スヘキモノトス而シテ其一ハ犯則者カ逃走スルノ恐レアルトキ其二ハ證憑ノ湮滅スル恐レアルトキ是レナリ此二箇ノ場合ニ於テハ間稅官吏ニ於テ證憑集取等ノ手續ヲ爲スノ暇マナク若シ一刻モ遲ヤスルトキハ忽チ機ヲ失スルノ場合ナリ故ニ右二箇ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ引致シテ告發ヲ爲スヘキモノトセリ而シテ犯則者逃走ノ恐レアル場合ハ到底犯則處分ヲ免カレサルコトヲ覺知シ其處分ニ先ツテ早く已ニ逃レントスル情況アルトキ又證憑湮滅ノ恐レアル場合ハ例ヘハ酒造ノ石數ヲ偽リタルコトノ發覺シタルニ因リ其届出ニ超過シタル數量ヲ他所ニ移サントスルカ如キ情況アルトキノ如キ即チ是レナリ

第三章 雜則

第十六條 書類送達費及差押物件ニシテ本人ニ還付スヘキモノ、運搬保管若ハ保存ニ要スル費用ハ犯則者之ヲ負擔スヘシ

本條ハ犯則處分ニ因リテ生シタル總テノ費用ハ犯則者ノ負擔タルヘキコトヲ定メタルニ過キスシテ法文ヲ一讀スレハ自ラ明瞭ナリトス而シテ差押ヘタル物件ニシテ本人ニ還付スヘキモノ、運搬賃又ハ保管賃若クハ保存料(他ノ倉庫ニ寄託シタル場合等)ニ關スル費用モ亦皆ナ犯則者ノ負擔タラシムルモノハ他ナシ右等ノ費用ト雖モ畢竟スルニ犯則ノ所爲アリタルカ爲メニ生シタル費用ナルヲ以テ其結果トシテ本人ノ負擔ニ歸セシムルコト當然ナレハナリ

第十七條 間稅署長若ハ間稅分署長ハ差押物件腐敗其他損失ノ虞アルトキハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ公

賣シ其代金ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其差押物件還付ノ申渡ヲ爲シタルトキハ其代金ヲ還付スヘシ

本條ハ第十二條又ハ第十四條第二項ノ場合ニ於テ往々適用スヘキ差押物ノ處分法ヲ規定シタルニ在リトス即チ間稅署長若クハ間稅分署長ハ差押ヘタル物件ニシテ腐敗其他損失ノ虞レアリト認メタル場合ニ於テハ本人ノ承諾ヲ得タル上ニテ之ヲ公賣ニ付シ其取得シタル代金ハ其裁判ノ言渡アルマテ之ヲ銀行等ニ供託スルコトヲ得ヘキモノトス例ヘハ造酒若クハ醬油等ヲ差押ヘ時日ノ經過ニ因リテ腐敗ヲ來タスノ虞レアルトキ又ハ烟草等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ相場ノ低落ニ因リ損失ヲ來タスノ虞レアルトキノ如キ是レナリ此等ノ場合ニ於テ適宜ノ處分ヲ爲サ、ルトキハ多少ノ損失ヲ來タスコト必然ナルヲ

以テ間税署長若シハ分署長ニ付與スルニ右ノ處分權ヲ以テセサルヘ
 カラス然レモ裁判所ニ告發シタル場合ニ於テハ其裁判アルマテハ其
 差押物ハ本人ノ所有タルヲ以テ間税署長若シハ分署長ト雖モ擅マニ
 之ヲ公賣スルノ權ナキハ勿論タリ故ニ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ必ス
 先ツ本人ノ承諾ヲ要スヘキモノトス若シ本人ニ於テ之ヲ承諾セサル
 トキハ假令ヘ損失ヲ來タスコトアルモ是レ本人自ラ招キタル結果ナ
 ルヲ以テ亦自ラ之ヲ負擔スヘキ勿論タルヘシ

第二項ハ裁判上其差押物件ヲ還付スルノ申渡アリタルトキハ前項ノ
 場合ニ於テ供託シタル代金ハ之ヲ本人ニ還付スヘキコトヲ指示シタ
 ルニ過キスシテ且ツ至當ノ處置ナレハ特ニ説明ヲ附スルノ必要ナキ
 モノトス

第十八條 此法律ニ於テ間税官吏トハ間接國税ノ檢

查若ハ徵收ニ從事スル官吏ヲ謂フ

本條ハ間税官吏トハ如何ナルモノタルヤヲ指示シタルニ過キスシテ
 即チ間接國税ノ檢査若クハ徵收ニ從事スル官吏ヲ謂フトアリ蓋シ此
 官吏ハ收税吏ヲ指シタルニ外ナラサルハ自ラ明カナルヲ知ルヘシ

第十九條 間税官吏ハ直接ト間接トヲ問ハズ沒收物
 件差押物件ヲ買受クルコト得ス

間税官吏ハ誠實ニ職務ヲ行ヒ最モ公正ナラサルヘカラス然ルニ若シ
 自己ノ差押ヘタル物件ヲ公賣スル場合ニ於テ直接ニ之ヲ買受ケ又ハ
 他人ヲシテ之ヲ買受ケシメ以テ私利ヲ取得セントスルカ如キアラハ
 其公正ヲ害スルヤ言フ俟ヌサルヘシ故ニ法律上此等ノ弊害ヲ豫防ス
 ルハ官吏ノ方正廉潔ヲ保全スルカ爲メ最モ必要ナリト云フヘシ是レ
 本條ノ規定アル所以ナリ

第二十條 此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行
ス但北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島
ニハ當分之ヲ施行セス

本條ハ此法律ノ實施期日及ヒ行政上ノ適宜ニ因リ當分之ヲ施行セサ
ル地方ヲ指示シタルニ過キナシテ別ニ説明ヲ要セサルモ一讀瞭然タ
リ故ニ贅セス

刑事訴訟法講義

附錄間稅國稅犯則者處分法講義終

24/12/35

明治廿四年二月七日印刷
全 年二月十日出版

版權登錄



著述者

印刷者兼
發行者

發賣所

全

全

全

磯部 四郎
東京市麹町區上二番町

八尾 新助
東京市神田區表神保町

八尾 書店
東京市東區北久太郎町

圖書出版會社
大阪市東區南久寶寺町

岡島 眞七
大阪市東區南久寶寺町

吉岡 平助
大阪市東區備後町

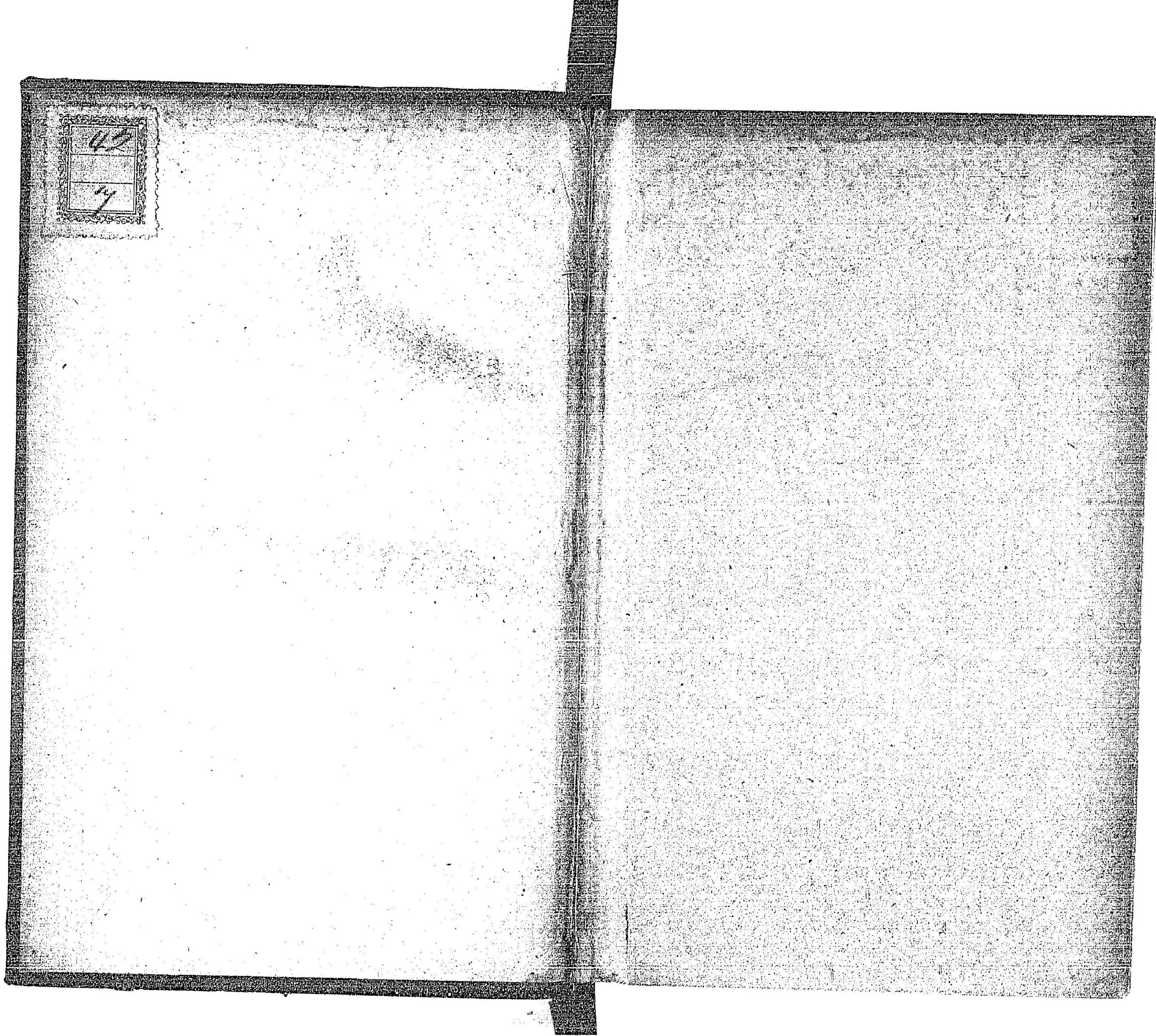
四丁目七十七番屋敷



大 賣 捌 所

鹿 熊 廣 高 新 和 靜 信 仙 岡 全 京 名 全 神 全 全 大 全 全 全 全 東
 兒 本 島 知 濁 歌 岡 濃 臺 山 都 古 戶 阪 京
 島 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市
 市 新 橫 古 市 江 長 大 仲 川 東 市 相 元 備 安 南 日 京 日 全 神
 十 二 町 町 本 川 野 町 之 原 洞 本 生 町 後 土 久 本 橋 本 田
 日 丁 六 町 町 町 町 院 町 橋 通 町 町 寶 橋 區 橋 區 區
 市 目 番 二 二 三 詰 五 四 四 寺 區 銀 區 裏 一
 町 町 町 町 條 條 丁 丁 丁 町 通 坐 通 神 ッ
 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目
 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目

吉 長 松 澤 林 平 廣 西 木 森 大 村 片 熊 壽 梅 積 岡 岡 博 丸 明 有
 田 崎 村 本 井 瀬 澤 村 黒 上 野 谷 岡 原 島 島 善
 幸 喜 喜 屋 御 東 久 善 寶 開 法 變
 兵 次 善 駒 富 文 市 太 文 禎 書 兵 四 榮 支 龜 文 支 書
 衛 郎 助 吉 吉 助 藏 郎 助 藏 店 衛 郎 堂 店 七 館 館 店 社 店 堂 閣



42
[Signature]

